II　手話奉仕員養成等

質問及び回答選択肢等	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	藤沢市	茅ヶ崎市	寒川町
保健福祉圏	横須賀・三浦					湘南東部		
問II-1								
1 実施した	○	○	○ ①入門課程は社協。②基礎課程は葉山町との共催	○	○ 入門課程は、社協で実施。	○	○	○
2 実施していない								
問II-2 どんなカリキュラムで実施しましたか。								
1 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程	○	○	○	○	○	○		
2 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施							○	○
3 独自のカリキュラム								
4 その他								
問II-3 実施形態について伺います。								
1 市町村独自に実施			○		○ 逗子市と共催で神聴協に講師依頼している			
2 聴覚障害者協会に委託	○			○		○		○
3 手話サークルに委託								
4 社会福祉団体に委託								
5 その他		鎌倉市手話通訳講習会実行委員会に委託					茅ヶ崎市手話通訳者連絡会に委託	
問II-4 講習の名称、回数、時間数等を記載してください。								
1 名 称	横須賀市手話講習会初級	入門・基礎手話講習会	①手話奉仕員養成講座入門課程 ②手話奉仕員養成講座基礎課程	29年度三浦市手話奉仕員養成講習会	平成29年度逗子市・葉山町手話奉仕員養成講座（基礎課程）	藤沢市手話講習会実施事業	平成29年度入門基礎手話講習会	初級1
2 回 数	42回	40回	①20回 ②22回	34回	22回	初級（午前の部）（夜間の部）全35回 中級コース（夜間の部）全15回 上級コース（夜間の部）全15回 養成コース（夜間の部）全10回	43回	20回
3 時間数	84時間（1回2時間）	80時間	①40時間（1回2時間） ②44時間（1回2時間）	68時間（2時間×34回）	44時間（1回2時間）	全コース1回につき2時間	64時間30分	40時間（1回2時間）
4 定 員	30人	20名（会場の都合で）	①20人 ②25人	なし	25人	初級（午前の部）25人 初級（夜間の部）30人 中級コース（夜間の部）30人 上級コース（夜間の部）30人 養成コース（夜間の部）当該年度手話統一試験受験資格のあるもの	20人	20人
5 受講人数	30人	入門23名、基礎15名	①8人 ②26人	8人	26人	初級（午前の部）25人 初級（夜間の部）28人 中級コース（夜間の部）30人 上級コース（夜間の部）22人 養成コース（夜間の部）4人	32人	15人
6 修了人数	17人	入門18名、基礎14名	①8人 ②26人	7人	26人	初級（午前の部）19人 初級（夜間の部）22人 中級コース（夜間の部）30人 上級コース（夜間の部）15人 養成コース（夜間の部）4人	18人	13人
問II-5								
1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア	○	○	①逗葉ろう協と手話通訳者 ②神聴協からの派遣講師	○	○	○	○	○
2 聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア								
3 聴覚障害者協会会員のみ								
4 手話通訳者または手話サークル会員のみ								
5 その他								
問II-6								
1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア			①○	○		○	○	○
2 聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア								
3 聴覚障害者協会会員のみ	○							
4 手話通訳者または手話サークル会員のみ	○							
5 外部講師	○	○	②神聴協からの派遣アシスタント講師	○	○	外部講師の方を招いての講義もあり		○
6 その他			②福祉課職員：講義「障害者福祉の基礎」		町職員			

質問及び回答選択肢等	平塚市	秦野市	伊勢原市	大磯町	二宮町	厚木市	大和市	海老名市	座間市	綾瀬市	愛川町	清川村
保健福祉圏	湘南西部					県央						
問II-1												
1 実施した	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2 実施していない												○
問II-2												
1 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程	○		○		○		○	○	○	○		
2 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施		○		○		○					○	
3 独自のカリキュラム												
4 その他												
問II-3												
1 市町村独自に実施											○	
2 聴覚障害者協会に委託	○	○	○	○	○	○		○	○	○		
3 手話サークルに委託												
4 社会福祉団体に委託							○					
5 その他				中部手話通訳者連絡会								
問II-4												
1 名 称	平塚市手話講習会（入門・基礎コース）	秦野市手話入門・基礎講座	平成29年度手話奉仕員養成講座（続・基礎課程）	平成29年度 大磯町手話講習会	手話入門基礎講座	①手話奉仕員養成講習会（入門課程） ②手話奉仕員養成講習会（基礎課程）	手話奉仕員養成事業	手話入門講習会	手話講座（初級・中級）	手話奉仕員養成講座	手話奉仕員養成講座 ～基礎課程～	
2 回 数	40回	40回	42回	計20回（昼の部・夜の部あり）	40回	40回（①18回 ②22回）	40回	40回	45回	40回	23回	
3 時間数	80時間（2h/1回×40）	60時間（1回/1.5時間）	84時間	30時間（1回、1時間30分）	60時間	80時間（①36時間 ②44時間）	80時間	80時間（1回2時間）	67.5時間	80時間	45時間	
4 定 員	25人	30人	20人	20人	20人	①40人 ②40人	30人	25人	20人	15人	30人	
5 受講人数	17人	26人	24人	昼13人 夜17人	12人	①26人 ②18人	33人	17人	22人	15人	10人	
6 修了人数	17人	24人	16人	昼13人 夜17人		①23人 ②17人	24人	8人	20人	13人	9人	
問II-5												
1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2〜5												
問II-6												
1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア	○毎回のミニ講演あり	○	○	○	○	○	○	○			○	
2 聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア												
3 聴覚障害者協会会員のみ										○		
4 手話通訳者または手話サークル会員のみ									○			
5 外部講師	○2回			○								
6 その他						障がい福祉課職員	市職員や言語聴覚士等の講義あり			○	町職員	

質問及び回答選択肢等	小田原市	南足柄市	中井町	大井町	松田町	山北町	開成町	箱根町	真鶴町	湯河原町	全体集計	横須賀・三浦	湘南東部	湘南西部	県央	県西
保健福祉圏	県西															
問II-1																
1 実施した	○	○	○	○	○	○	○				26	5	3	5	6	7
2 実施していない								○	○	○	4	0	0	0	1	3
問II-2																
1			○	○	○	○	○				18	5	1	3	4	5
2	○基礎課程	○									8	0	2	2	2	2
3											0	0	0	0	0	0
4											0	0	0	0	0	0
問II-3																
1											3	2	0	0	1	0
2		○足柄上地域	○	○	○	○	○				19	2	2	5	4	6
3											0	0	0	0	0	0
4											1	0	0	0	1	0
5	○福祉団体と共催										4	1	1	1	0	1
問II-4																
1 名 称	小田原市手話奉仕員養成講座（基礎課程）	平成29年度足柄上地域手話奉仕員養成講座	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会				26	5	3	5	6	7
2 回 数	22回	40回	40回（入門課程18回、基礎課程22回）	40回（入門過程18回、基礎課程22回）	40回（入門過程18回、基礎課程22回）	40回（入門過程18回、基礎課程22回）	40回（入門課程18回、基礎課程22回）				26	5	3	5	6	7
3 時間数	44時間	80時間（1回2時間）	80時間（入門課程36時間、基礎課程44時間）	80人（入門過程36時間、基礎課程44時間）	80人（入門過程36時間、基礎課程44時間）	80（入門過程36時間、基礎課程44時間）	80人（入門過程36時間、基礎課程44時間）				26	5	3	5	6	7
4 定 員	20人	25人	25人	25人	25人	25人	25人				26	5	3	5	6	7
5 受講人数	19人	7人（南足柄市）	24人	24人	24人	24人	24人				26	5	3	5	6	7
6 修了人数	15人	6人（南足柄市）	21人	21人	21人	21人	21人				25	5	3	4	6	7
問II-5																
1	○	○	○	○	○		○				25	5	3	5	6	6
2											0	0	0	0	0	0
3											0	0	0	0	0	0
4											0	0	0	0	0	0
5											0	0	0	0	0	0
問II-6																
1	○	○	○	○	○	○	○				21	2	3	5	4	7
2											0	0	0	0	0	0
3											2	1	0	0	1	0
4											2	1	0	0	1	0
5											9	5	2	2	0	0
6	○障がい福祉課職員										7	2	0	0	4	1

	1 名 称																		手話通訳者養成講座													1	0	0	0	1	0
	2 回 数																		25回													1	0	0	0	1	0
	3 時間数																		50時間													1	0	0	0	1	0
	4 定 員																		15人													1	0	0	0	1	0
	5 内 容																		県試験を受ける人のための講座													1	0	0	0	1	0
	6 講 師(該当するもの全てに○印、「その他」は回答欄に具体的に記載してください。)																																				
	(1)聴覚障害者																		○													1	0	0	0	1	0
	(2)手話通訳者、手話通訳士																		○													1	0	0	0	1	0
	(3)その他																															1	0	0	0	1	0
問Ⅱ-37	市町村の手話奉仕員養成が、県の手話通訳者養成になかなかつながらない現状があります。その理由は何だと思いますか。(複数回答)																																				
	1 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。(学科試験)							○	○					○	○	○			○				○	○			○	○		○		11	0	2	1	3	5
	2 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。(技術試験)					○		○	○					○	○	○			○				○	○			○	○		○		12	1	2	1	3	5
	3 講習会場が遠方なので、受講しにくい	○			○						○						○		○			○		○	○		○	○	○			11	2	0	1	2	6
	4 手話奉仕員養成で、十分な内容の講習ができていない		○		○				○			○							○							○						6	2	1	1	1	1
	5 その他			職業とするには手話通訳者の身分保障が弱い		養成講座を受講するためのまとまった時間を取ることができない。	市町村の手話通訳講座の後で、改めて時間を取って神奈川県の通訳者養成につなげることが、難しい状況があるのではないか。	定員が少なすぎる	○	○						講習の回数が多い		通訳者を目指すより、興味本位の受講者が多く奉仕員養成講座で満足している。また通訳者の資格を目標にしたいが、県の講習会に行く時間がない		通訳者を目指す受講生が少ない	現状を把握していないためわからない	開催日程									現状を把握していない為わからない	12	2	3	1	4	2
問Ⅱ-38	県の手話通訳者資格取得のためには、手話学習経験が何年程度必要と思いますか。																																				
	1 2年				○																											1	1	0	0	0	0
	2 3年										○	○								○			○									4	0	0	2	1	1
	3 4年								○					○																		2	0	1	1	0	0
	4 5年					○理想	○			○						○		○				○					○	○	○	○		10	1	1	1	2	5
	5 6年		○	○ 現状は8～10年程度要している				○							○		○															5	2	1	0	2	0
	6 7年																															0	0	0	0	0	0
	7 8年					○現実																										1	1	0	0	0	0
	8 9年																															0	0	0	0	0	0
	9 10年																															0	0	0	0	0	0
	10 その他	個々によって必要年数は異なる。																	個人の状況によるので一概に言えない		現状を把握していないためわからない			○							現状を把握していない為わからない	5	1	0	0	2	2
問Ⅱ-39	県の手話通訳者養成に改善を希望することは何ですか。(複数回答)																																				
	1 養成コースの複数化			○		○	○	○	○	○	○			○		○	○	○														11	2	3	3	3	0
	2 養成コースの地域開催	○			○			○			○	○	○		○		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			18	2	1	3	4	8
	3 養成コースの充実							○	○							○	○		○					○								6	0	2	0	3	1
	4 再受験者対策の充実		○	○	○	○	○	○		○不合格者へのフォロー、講習会充実	○		○	○	○	○	○		○				○			○						16	4	2	4	4	2
	5 合格基準の緩和							○							○								○									3	0	1	0	1	1
	6 その他			養成コース選考試験に落ちた人対象のコース		時間帯の考慮																土日夜間開催								○	現状を把握していない為わからない	5	2	0	0	0	3
問Ⅱ-40	県の手話通訳者養成が、平成30年度から講習回数拡大、面接試験導入等[illegible]																																				
	1 知っている	○	○	○		○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○			○		○	○					○		18	4	3	2	5	4
	2 知らない				○						○	○	○							○	○		○			○	○	○	○		○	12	1	0	3	2	6
問Ⅱ-41	手話通訳者を増やしていくために、どんなことが必要だと思いますか。(複数回答)																																				
	市町村での取り組み																																				
	1 聴覚障害者との交流促進	○	○	○		○	○	○			○	○				○	○		○	○		○	○	○	○		○	○				18	4	2	2	4	6
	2 手話、聴覚障害者理解の普及	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○		○	○			○	21	3	2	5	6	5
	3 手話奉仕員養成の充実	○			○			○	○		○	○	○		○				○	○		○	○			○	○	○				15	2	2	3	3	5
	4 手話通訳者の身分保障		○			○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○			○	19	2	2	3	5	7
	5 その他																													○		1	0	0	0	0	1
	県での取り組み																																				
	1 手話通訳者養成講習会の充実	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○	○		○	○		○				○	○				19	5	2	3	6	3
	2 手話通訳者の身分保障	○	○	○		○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		○	○			○	22	4	2	4	6	6
	3 手話、聴覚障害者理解の普及	○		○			○	○		○	○		○		○	○	○		○	○				○	○		○	○	○		○	18	2	2	3	5	6
	4 市町村手話奉仕員養成と県手話通訳者養成をつなげる工夫	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○				24	5	3	4	5	7
	5 財政的な支援	○	○	○		○	○	○					○	○		○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○		○	20	4	2	2	5	7
	6 その他																													○		1	0	0	0	0	1
問Ⅱ-42	手話奉仕員養成、手話通訳者養成等について意見があれば、自由に記載してください。																																				
	(回答欄)						特になし	なし	手話通訳者養成につなげるための補習的講座について、町レベルで行うと参加者が足りない状態が続いている。市町村で輪番制にするか、在勤対象者も受講可							様々なレベルの方がいるので、画一的な講習ではなかなかフォローができず、講師の確保や財源的にも難しいかと思います。県の講習会を受講できる人数を増やすなどの対応も必要かと思います。	特になし					若い世代の受講生が少ない。県の通訳者養成につながるレベルの受講生育成に時間がかかる。平日昼間に活動できる人材の確保ができない。										6	0	3	0	2	1
問Ⅱ-43	市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等実施しましたか。																																				
	1 実施した							○	○	○新採用職員研修							○	○									○	○				7	0	2	1	2	2
	2 実施していない	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	23	5	1	4	5	8
問Ⅱ-44	「実施した」と回答した市町村に伺います。具体的にどんな内容でしたか。																																				
	1 名 称							職員新採用研修会	新採用職員研修	聴覚障がい者への配慮と手話実技							新採用職員研修	職員新人研修									障害者差別解消法に関する研修	平成30年度障害者差別解消法に関する研修				7	0	2	1	2	2
	2 対 象							新採用職員	新採用職員	新採用職員							新採用職員	30年度新規採用職員									全職員	2・3・4級の職員				7	0	2	1	2	2
	3 回 数							1回	1回	1回							1回	1回									2	1回				7	0	2	1	2	2
	4 時間数							30分程度	20分	50分							30分	1時間									1時間30分	1時間30分				7	0	2	1	2	2
	5 定 員							採用職員数による		特になし 25～30人で2グループに分けて行った							なし	20									100	20人				6	0	1	1	2	2
	6 内 容(該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。)																																				
	(1)聴覚障害に関する講演									○							○	○									○	○				5	0	0	1	2	2
	(2)聴覚障害者の体験談																○										○	○				3	0	0	0	1	2
	(3)手話講習							○	○	○							○	○									○	○				7	0	2	1	2	2
	(4)その他									窓口対応時の留意点																						7	0	2	1	2	2
	7 講 師(該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。)																																				
	(1)聴覚障害者																○										○	○				3	0	0	0	1	2
	(2)手話通訳者、手話通訳士								○	○設置手話通訳者								○									○	○				5	0	1	1	1	2
	(3)その他							○										障がい福祉課職員														7	0	2	1	2	2
問Ⅱ-45	「実施していない」と回答した市町村に伺います。実施していない理由は何ですか。(複数回答)																																				
	1 必要性を感じないから														○														○			2	0	0	0	1	1
	2 時間的に余裕がないから	○	○		○	○					○	○			○				○	○		○	○	○	○					○	○	15	4	0	2	3	6
	3 予算が確保できないから		○		○						○				○				○	○			○	○		○					○	10	2	0	1	3	4
	4 講師がいないから											○								○	○										○	4	0	0	1	2	1
	5 運営が大変だから																			○			○							○	○	4	0	0	0	1	3
	6 その他			実施予定			障がいのある方への配慮と支援について記載したサポートブックを職員全員に配布し、障がいのある方への配慮を促している。						聴覚障害者に特化していないが、新採用職員に対して、障害者に対する研修は実施している。	○		検討しています。			設置通訳者がいるので											○		7	1	1	2	2	1
問Ⅱ-46	市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等について、平成30年度に改善、変更したことがあれば記載ください。																																				
	(回答欄)			平成29年度より全職員を対象とした差別解消法の取り組みとして、聴覚だけでなく、他の障がいについても理解・促進の研修を継続中。今後、聴覚障がいについても実施予定。				なし						障がい者(特に聴覚障害)の理解促進のための研修を年度内に実施予定								今年度、新規採用職員を対象とした「差別解消法研修」の一環で「手話」についての講義を予定。										4	1	1	1	0	1

Ⅱ　手話奉仕員養成等

保健福祉圏			横須賀・三浦					保健福祉圏
市町村名			横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	横須賀・三浦
質問及び回答選択肢等		回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	
問Ⅱ-1	平成29年度に、手話奉仕員養成を実施しましたか。							
	1　実施した		○	○	○ ①入門課程は社協。 ②基礎課程は葉山町との共催	○	○ 入門課程は、社協で実施。	5
	2　実施していない							0
問Ⅱ-2	どんなカリキュラムで実施しましたか。							
	1　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程		○	○	○	○	○	5
	2　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施							0
	3　独自のカリキュラム							0
	4　その他							0
問Ⅱ-3	実施形態について伺います。							
	1　市町村独自に実施				○		○ 逗子市と共催で神聴協に講師依頼している。	2
	2　聴覚障害者協会に委託		○			○		2
	3　手話サークルに委託							0
	4　社会福祉団体に委託							0
	5　その他			鎌倉市手話通訳講習会実行委員会に委託				1
問Ⅱ-4	講習の名称、回数、時間数等を記載してください。							
	1　名　称		横須賀市手話講習会初級	入門・基礎手話講習会	①手話奉仕員養成講座入門課程 ②手話奉仕員養成講座基礎課程	29年度三浦市手話奉仕員 養成講習会	平成29年度逗子市・葉山町 手話奉仕員養成講座（基礎課程）	5
	2　回　数		42回	40回	①20回 ②22回	34回	22回	5
	3　時間数		84時間（1回2時間）	80時間	①40時間（1回2時間） ②44時間（1回2時間）	68時間（2時間×34回）	44時間（1回2時間）	5
	4　定　員		30人	20名（会場の都合で）	①20人 ②25人	なし	25人	5
	5　受講人数		30人	入門23名、基礎15名	①8人 ②26人	8人	26人	5
	6　修了人数		17人	入門18名、基礎14名	①8人 ②26人	7人	26人	5
問Ⅱ-5	実技講師はどなたが担いましたか。							
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	①逗葉ろう協と手話通訳者 ②神聴協からの派遣講師	○	○	5
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア							0
	3　聴覚障害者協会会員のみ							0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ							0
	5　その他							0
問Ⅱ-6	講義講師はどなたが担いましたか。（複数回答）							
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア				①○	○		2
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア							0
	3　聴覚障害者協会会員のみ		○					1
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ		○					1
	5　外部講師		○	○	②神聴協からの派遣アシスタント講師	○	○	5
	6　その他				②福祉課職員：講義「障害者福祉の基礎」		町職員	2
問Ⅱ-7	手話奉仕員養成目標「手話を習得し、地域の聴覚障害者と手話で会話ができ、習得した手話等を活用して、地域の聴覚障害者団体の行事への参加や、手話サークル活動への参加等、手話活動を行う」を達成できていますか。							

	1　達成できている		○		①○50%程度 ②○70%程度		○	3
	2　達成できていない							0
	3　その他			技術習得に受講者の個人差がある		○		2
問Ⅱ-8	**手話奉仕員養成目標が「達成できていない」と回答した市町村に伺います。達成できていないのは、どの部分ですか。（複数回答）**							
	1　聴覚障害者と、手話で会話ができない（該当するものすべてに○をしてください）							0
	（1）会話に必要な知識が身についていない							0
	（2）会話に必要な技術が身についていない							0
	2　聴覚障害者団体の行事へ参加が不十分							0
	3　手話サークル活動への参加が不十分							0
	4　その他							0
問Ⅱ-9	**目標が達成できない原因は何だと感じていますか。（複数回答）**							
	1　予算が足りないため、十分な講習時間が確保できない。							0
	2　指導講師が足りない。							0
	3　その他							0
問Ⅱ-10	**手話奉仕員養成を実施するにあたっての課題は何だと思いますか。（複数回答）**							
	1　講師不足			○		○		2
	2　聴覚障害者との交流促進		○				○	2
	3　受講者不足					○		1
	4　受講者のレベルに合わせた講習実施		○			○	○	3
	5　運営が大変			○				1
	6　その他				基礎課程を複数回希望する者の対応		受講生の意識の底上げ	2
問Ⅱ-11	**平成30年度の手話奉仕員養成で改善、変更があったものがあれば記載してください。**							
	（回答欄）							0
問Ⅱ-12	**「実施していない」理由は何ですか。（複数回答）**							
	1　予算が確保できない							0
	2　会場が確保できない							0
	3　講師が確保できない							0
	4　運営が大変だから							0
	5　その他							0
問Ⅱ-13	**平成30年度は実施しましたか。または、実施しますか。**							
	1　実施する、または実施した		○	○	○ ①入門課程は社協。 ②基礎課程は葉山町との共催	○	○	5
	2　実施しない							0
問Ⅱ-14	**「実施する、または実施した」と回答した市町村に伺います。どんなカリキュラムで実施または実施予定ですか。**							
	1　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程		○	○	○	○	○	5
	2　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施							0
	3　独自のカリキュラム							0
	4　その他							0
問Ⅱ-15	**実施形態について伺います。**							
	1　市町村独自に実施				○		○逗子市と共催で神聴協に講師依頼している	2
	2　聴覚障害者協会に委託		○			○		2
	3　手話サークルに委託							0
	4　社会福祉団体に委託							0
	5　その他			鎌倉市手話通訳講習会実行委員会に委託				1
問Ⅱ-16	**講習の名称、回数、時間数等を記載してください。**							
	1　名　称		手話講習会初級	入門・基礎手話講習会	①手話奉仕員養成講座入門課程 ②手話奉仕員養成講座基礎課程	30年度三浦市手話奉仕員養成講座	平成30年度逗子市・葉山町 手話奉仕員養成講座（基礎課程）	5
	2　回　数		42回	40回	①20回 ②22回	37回	22回	5
	3　時間数		84時間（1回2時間）	80時間	①40時間（1回2時間） ②44時間（1回2時間）	74時間（2時間×37回）	44時間（1回2時間）	5

	4 定 員		30人	30人	①20人 ②25人	なし	25人	5
	5 受講人数(実施済の場合記載)		30人		①19人 ②30人	18人	30人	4
	6 修了人数(実施済の場合記載)				①17人 ②実施中			1
問Ⅱ-17	**実技講師はどなたが担いましたか。または、担う予定ですか。**							
	1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	①逗葉ろう協と手話通訳者 ②神聴協からの派遣講師	○	○	5
	2 聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア							0
	3 聴覚障害者協会会員のみ							0
	4 手話通訳者または手話サークル会員のみ							0
	5 その他							0
問Ⅱ-18	**平成29年度、30年度とも手話奉仕員養成を「実施しない」市町村に伺います。今後、実施する予定はありますか。**							
	1 実施する予定がある(平成 年度)							0
	2 実施する予定はない							0
	3 検討中							0
問Ⅱ-19	**平成29年度に、手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか**							
	1 実施した		○	○	○	○	○	5
	2 実施していない							0
	3 その他							0
問Ⅱ-20	**手話奉仕員養成以外の手話に関する講座等の目的は何ですか。(複数回答)**							
	1 手話の普及、拡大のための講座等		○		○			2
	2 手話通訳者養成につなげるための補習的講座等		○	○	○	○	○	5
	3 その他							0
問Ⅱ-21	**「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**							
	1 名 称		初心者向け手話教室		理解促進研修・啓発事業(手話サークル2団体に委託)			2
	2 回 数		5回×4コース		5回/1団体			2
	3 時間数		10時間(1回2時間)		1団体あたり:10時間(1回2h)			2
	4 定 員		各コース20人		特になし			2
	5 講 師(該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。)							0
	(1)聴覚障害者		○		○			2
	(2)手話通訳者、手話通訳士		○		○			2
	(3)その他							1
	6 内 容				研修・啓発を通じて共生社会の実現を図るもの。 「手話にふれてみませんか」 「手話でコミュニケーション」			1
問Ⅱ-22	**「手話の普及、拡大のための講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば、記載してください。**							
	(回答欄)				交流・ふれあい事業 (ろう協・サークルのブースで手話体験を実施)			1
問Ⅱ-23	**「手話の普及、拡大のための講座等」の課題は、何だと思いますか。具体的に記載してください。**							
	(回答欄)		難聴者の受講。					1
問Ⅱ-24	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**							
	1 名 称		手話通訳者養成講習会 基本・応用	中級手話講習会、・上級手話講習会	手話講習会(上級課程)、 手話講習会(フォローアップ講座) (葉山町との共催、神聴協へ委託)	ﾜﾝ･ﾂｰｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ手話講習会	平成29年度逗子市・葉山町手話講習会 (上級課程)/(フォローアップ講座)	5
	2 回 数		30回・16回	中級15回、上級15回	上級:22回+選考試験 フォローアップ:9回+選考試験	13回	22回+選考試験/9回+選考試験	5
	3 時間数		60時間・32時間(1回2時間)	中級30時間、上級22.5時間	上級 44時間(1回2時間)+選考試験 フォローアップ 18時間(1回2時間)+選考試験	26時間(2時間×13回)	44時間/18時間	5
	4 定 員		30人・15人(県手話通訳者養成講座受講者)	中級20人、上級10人	上級:25名人 ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ:15人 いずれも事前に面接試験で技術度確認	なし	25人/15人	5

	5 テキスト		講義編・なし	なし	読み取り、聞き取りなど教材は講師が準備	講師が作成した資料	いずれも講師が用意した教材を使用。	5
	6 内 容			手話通訳技術等についての講義	・手話講習会（上級課程）：県の手話通訳者養成コース受講に向けての手話や知識のレベルアップ ・手話講習会（フォローアップ講座）：県の手話通訳者養成コース試験に合格するための直前対策	手話のﾎﾟｲﾝﾄ・実技等	県の通訳者養成につなげるための講座。	4
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者		○・○	○	○	○	○	5
	（2）手話通訳者、手話通訳士		○・○	○	○	○	○	5
	（3）その他		外部講師					5
問Ⅱ-25	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。手話通訳者養成につなげるために聴覚障害者との会話や手話の表現、読み取りなどは十分に向上しましたか。**							
	1 十分に向上した							0
	2 相当向上した					○		1
	3 ある程度向上した		○	○	○		○	4
	4 なかなか向上しない							0
	5 向上しない							0
	6 その他							0
問Ⅱ-26	**「なかなか向上しない」、「向上しない」と回答した市町村に伺います。どのあたりの向上が難しいですか。（複数回答）**							
	1 聴覚障害者との会話							0
	2 手話の表現							0
	3 手話の読み取り							0
	4 その他							0
問Ⅱ-27	**「向上が難しい」理由は何だと思いますか。**							
	1 予算が足りないため、十分な講習時間を確保できない							0
	2 指導講師が足りない							0
	3 その他							0
問Ⅱ-28	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば記載してください。**							
	（回答欄）				特になし			1
問Ⅱ-29	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」の課題は何だと思いますか。具体的に記載してください。**							
	（回答欄）		受講者の姿勢、意識に差があるため、どのレベルに合せて講座を行うか。	回数、講師の確保	行政主催で行う講座のため、受講年令に制限を設けるのが難しい	地域の特性。また通訳養成の場が藤沢と遠いため通うのが大変である。養成の場をもう少し増やしてほしい。	受講生同士のレベル差が大きい。通訳者になる意志が弱い。	5
問Ⅱ-30	**「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**							
	1 名 称							0
	2 回 数							0
	3 時間数							0
	4 定 員							0
	5 内 容							0
	6 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者							0
	（2）手話通訳者、手話通訳士							0
	（3）その他							0
問Ⅱ-31	**「その他」と回答した市町村に伺います。平成30年度に改善、変更があった事項を記載してください。**							
	（回答欄）							0
問Ⅱ-32	**平成30年度は手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか、または実施しますか。**							
	1 実施した、または実施の予定		○	○	○	○	○	5
	2 実施しない							0
	3 検討中							0
問Ⅱ-33	**「実施した、または実施の予定」の市町村に伺います。目的は何ですか。（複数回答）**							
	1 手話の普及、拡大のための講座等		○		○			2
	2 手話通訳者養成につなげるための補習的講座等		○	○	○	○	○	5

	3 その他							0
問Ⅱ-34	**「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**							
	1 名 称		初心者向け手話教室		理解促進研修・啓発事業を委託により実施（2団体）			2
	2 回 数		5回×4コース		5回/1団体			2
	3 時間数		10時間（1回2時間）		1団体あたり：10時間（1回2時間）			2
	4 定 員		各コース20人		特になし			2
	5 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者		○		○			2
	（2）手話通訳者、手話通訳士		○		○			2
	（3）その他							0
	6 内 容				研修・啓発を通じて共生社会の実現を図るもの。 「手話ってなあに？」 「手話でコミュニケーション」			1
問Ⅱ-35	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**							
	1 名 称		手話通訳者養成講習会 基本・応用	中級手話講習会・上級手話講習会	手話講習会（上級課程）、 手話講習会（フォローアップ講座） （葉山町との共催、神聴協へ委託）	ﾜﾝ･ﾂｰｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ手話講習会	平成30年度逗子市・葉山町手話講習会 （上級課程）/（フォローアップ講座）	5
	2 回 数		30回・16回	中級15回、上級15回	上級：22回+選考試験 フォローアップ：9回＋選考試験	13回	22回＋選考試験/9回＋選考試験	5
	3 時間数		60時間・32時間（1回2時間）	中級30時間、上級22.5時間	上級 44時間（1回2時間）＋選考試験 フォローアップ 18時間（1回2時間）＋選考試験	26時間（2時間×13回）	44時間/18時間	5
	4 定 員		30人・15人（県手話通訳者養成講座受講者）	中級20人、上級10人	上級：25人、 ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ：15人 いずれも事前に面接試験で技術度確認	なし	25人/15人	5
	5 テキスト			なし	読み取り、聞き取りなど教材は講師が準備	講師が作成した資料	いずれも講師が用意した教材を使用。	4
	6 内 容				上級課程の目的は、「県の養成講座に合格するための技術力、知識の向上」。フォローアップ講座の目的は、「県の養成講座選考試験の直前対策」。	手話のﾎﾟｲﾝﾄ・実技等	県の通訳者養成につなげるための講座。	3
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者		○	○	○	○		4
	（2）手話通訳者、手話通訳士		○	○	○	○		4
	（3）その他		外部講師					5
問Ⅱ-36	**「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**							
	1 名 称							0
	2 回 数							0
	3 時間数							0
	4 定 員							0
	5 内 容							0
	6 講 師（該当するもの全てに○印、「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者							0
	（2）手話通訳者、手話通訳士							0
	（3）その他							0
問Ⅱ-37	**市町村の手話奉仕員養成が、県の手話通訳者養成になかなかつながらない現状があります。その理由は何だと思いますか。（複数回答）**							
	1 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（学科試験）							0
	2 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（技術試験）						○	1
	3 講習会場が藤沢なので、受講しにくい		○			○		2
	4 手話奉仕員養成で、十分な内容の講習ができていない			○		○		2

	5 その他				職業とするには手話通訳者の身分保障が弱い		養成講座を受講するためのまとまった時間を取ることができない。	2
問Ⅱ−38	**県の手話通訳者資格取得のためには、手話学習経験が何年程度必要と思いますか。**							
	1 2年					○		1
	2 3年							0
	3 4年							0
	4 5年						○理想	1
	5 6年			○	○ 現状は8～10年程度要している			2
	6 7年							0
	7 8年						○現実	1
	8 9年							0
	9 10年							0
	10 その他		個々によって必要年数は異なる。					1
問Ⅱ−39	**県の手話通訳者養成に改善を希望することは何ですか。（複数回答）**							
	1 養成コースの複数化				○		○	2
	2 養成コースの地域開催		○			○		2
	3 養成コースの充実							0
	4 再受験者対策の充実			○	○	○	○	4
	5 合格基準の緩和							0
	6 その他				養成コース選考試験に落ちた人対象のコース		時間帯の考慮	2
問Ⅱ−40	**県の手話通訳者養成が、平成30年度から講習回数拡大、面接試験導入等大きく改編されることを知っていますか。**							
	1 知っている		○	○	○		○	4
	2 知らない					○		1
問Ⅱ−41	**手話通訳者を増やしていくために、どんなことが必要だと思いますか。（複数回答）**							
	市町村での取り組み							
	1 聴覚障害者との交流促進		○	○	○		○	4
	2 手話、聴覚障害者理解の普及		○	○	○			3
	3 手話奉仕員養成の充実		○			○		2
	4 手話通訳者の身分保障			○			○	2
	5 その他							0
	県での取り組み							
	1 手話通訳者養成講習会の充実		○	○	○	○	○	5
	2 手話通訳者の身分保障		○	○	○		○	4
	3 手話、聴覚障害者理解の普及		○		○			2
	4 市町村手話奉仕員養成と県手話通訳者養成をつなげる工夫		○	○	○	○	○	5
	5 財政的な支援		○	○	○		○	4
	6 その他							0
問Ⅱ−42	**手話奉仕員養成、手話通訳者養成等について意見があれば、自由に記載してください。**							
	（回答欄）							0
問Ⅱ−43	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等実施しましたか。**							
	1 実施した							0
	2 実施していない		○	○	○	○	○	5
問Ⅱ−44	**「実施した」と回答した市町村に伺います。具体的にどんな内容でしたか。**							
	1 名 称							0
	2 対 象							0
	3 回 数							0
	4 時間数							0
	5 定 員							0
	6 内 容（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）							
	（1）聴覚障害に関する講演							0
	（2）聴覚障害者の体験談							0

	(3)手話講習							0
	(4)その他							0
	7　講　師(該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。)							
	(1)聴覚障害者							0
	(2)手話通訳者、手話通訳士							0
	(3)その他							0
問Ⅱ-45	**「実施していない」と回答した市町村に伺います。実施していない理由は何ですか。(複数回答)**							
	1　必要性を感じないから							0
	2　時間的に余裕がないから		○	○		○	○	4
	3　予算が確保できないから			○		○		2
	4　講師がいないから							0
	5　運営が大変だから							0
	6　その他				実施予定			1
問Ⅱ-46	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等について、平成30年度に改善、変更したことがあれば記載ください。**							
	(回答欄)				平成29年度より全職員を対象とした差別解消法の取り組みとして、聴覚だけでなく、他の障がいについても理解・促進の研修を継続中。今後、聴覚障がいについても実施予定。			1

Ⅱ　手話奉仕員養成等

保健福祉圏			湘南東部			
市町村名			藤沢市	茅ヶ崎市	寒川町	湘南東部
質問及び回答選択肢等		回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	
問Ⅱ－1	平成29年度に、手話奉仕員養成を実施しましたか。					
	1　実施した		○	○	○	3
	2　実施していない					0
問Ⅱ－2	どんなカリキュラムで実施しましたか。					
	1　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程		○			1
	2　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施			○	○	2
	3　独自のカリキュラム					0
	4　その他					0
問Ⅱ－3	実施形態について伺います。					
	1　市町村独自に実施					0
	2　聴覚障害者協会に委託		○		○	2
	3　手話サークルに委託					0
	4　社会福祉団体に委託					0
	5　その他			茅ヶ崎市手話通訳者連絡会に委託		1
問Ⅱ－4	講習の名称、回数、時間数等を記載してください。					
	1　名　称		藤沢市手話講習会実施事業	平成29年度入門基礎手話講習会	初級1	3
	2　回　数		初級（午前の部）（夜間の部）全35回 中級コース（夜間の部）全15回 上級コース（夜間の部）全15回 養成コース（夜間の部）全10回	43回	20回	3
	3　時間数		全コース1回につき2時間	64時間30分	40j時間（1回2時間）	3
	4　定　員		初級（午前の部）25人 初級（夜間の部）30人 中級コース（夜間の部）30人 上級コース（夜間の部）30人 養成コース（夜間の部）当該年度手話統一試験受験資格のあるもの	20人	20人	3
	5　受講人数		初級（午前の部）25人 初級（夜間の部）28人 中級コース（夜間の部）30人 上級コース（夜間の部）22人 養成コース（夜間の部）4人	32人	15人	3
	6　修了人数		初級（午前の部）19人 初級（夜間の部）22人 中級コース（夜間の部）30人 上級コース（夜間の部）15人 養成コース（夜間の部）4人	18人	13人	3
問Ⅱ－5	実技講師はどなたが担いましたか。					

	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○	3
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア					0
	3　聴覚障害者協会会員のみ					0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ					0
	5　その他					0
問Ⅱ-6	**講義講師はどなたが担いましたか。（複数回答）**					
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○	3
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア					0
	3　聴覚障害者協会会員のみ					0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ					0
	5　外部講師		外部講師の方を招いての講義もあり		○	2
	6　その他					0
問Ⅱ-7	**手話奉仕員養成目標「手話を習得し、地域の聴覚障害者と手話で会話ができ、習得した手話等を活用して、地域の聴覚障害者団体の行事への参加や、手話サークル活動への参加等、手話活動を行う」を達成できていますか。**					
	1　達成できている			○		1
	2　達成できていない				○	1
	3　その他		判別が難しい			1
問Ⅱ-8	**手話奉仕員養成目標が「達成できていない」と回答した市町村に伺います。達成できていないのは、どの部分ですか。（複数回答）**					
	1　聴覚障害者と、手話で会話ができない（該当するものすべてに○をしてください）					0
	（1）会話に必要な知識が身についていない					0
	（2）会話に必要な技術が身についていない				○	1
	2　聴覚障害者団体の行事へ参加が不十分				○	1
	3　手話サークル活動への参加が不十分				○	1
	4　その他					0
問Ⅱ-9	**目標が達成できない原因は何だと感じていますか。（複数回答）**					
	1　予算が足りないため、十分な講習時間が確保できない。					0
	2　指導講師が足りない。					0
	3　その他				○	1
問Ⅱ-10	**手話奉仕員養成を実施するにあたっての課題は何だと思いますか。（複数回答）**					
	1　講師不足		○	○		2
	2　聴覚障害者との交流促進		○			1
	3　受講者不足					0
	4　受講者のレベルに合わせた講習実施				○	1
	5　運営が大変					0

	6　その他				○	1
問Ⅱ－11	**平成30年度の手話奉仕員養成で改善、変更があったものがあれば記載してください。**					
	（回答欄）			これまでは、夜間（19:00～）実施していたが、30年度は若い人（主婦層）が参加し易いよう、午前中（10:00～）に実施。		1
問Ⅱ－12	**「実施していない」理由は何ですか。（複数回答）**					
	1　予算が確保できない					0
	2　会場が確保できない					0
	3　講師が確保できない					0
	4　運営が大変だから					0
	5　その他					0
問Ⅱ－13	**平成30年度は実施しましたか。または、実施しますか。**					
	1　実施する、または実施した		○	○	○	3
	2　実施しない					0
問Ⅱ－14	**「実施する、または実施した」と回答した市町村に伺います。どんなカリキュラムで実施または実施予定ですか。**					
	1　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程		○	○	○	3
	2　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施					0
	3　独自のカリキュラム					0
	4　その他					0
問Ⅱ－15	**実施形態について伺います。**					
	1　市町村独自に実施					0
	2　聴覚障害者協会に委託		○		○	2
	3　手話サークルに委託					0
	4　社会福祉団体に委託		○			1
	5　その他			茅ヶ崎市手話通訳者連絡会に委託		1
問Ⅱ－16	**講習の名称、回数、時間数等を記載してください。**					
	1　名　称		藤沢市手話講習会実施事業	平成30年度茅ヶ崎市手話奉仕員養成講座（入門基礎コース）	初級1・初級2	3
	2　回　数		初級（午前の部）（夜間の部）全35回 中級コース（夜間の部）全15回 上級コース（夜間の部）全15回 養成コース（夜間の部）全10回	40回	40回（18回・22回）	3
	3　時間数		全コース1回につき2時間	80時間	80時間（36時間・44時間）	3
	4　定　員		初級（午前の部）25人 初級（夜間の部）30人 中級コース（夜間の部）30人 上級コース（夜間の部）30人 養成コース（夜間の部）特に規定なし（4,5人程度）	20人	20人・20人	3
	5　受講人数（実施済の場合記載）			26人		1
	6　修了人数（実施済の場合記載）					0
問Ⅱ－17	**実技講師はどなたが担いましたか。または、担う予定ですか。**					

	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○	3
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア					0
	3　聴覚障害者協会会員のみ					0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ					0
	5　その他					0
問Ⅱ-18	平成29年度、30年度とも手話奉仕員養成を「実施しない」市町村に伺います。今後、実施する予定はありますか。					
	1　実施する予定がある（平成　　年度）					0
	2　実施する予定はない					0
	3　検討中					0
問Ⅱ-19	平成29年度に、手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか					
	1　実施した			○	○	2
	2　実施していない		○			1
	3　その他					0
問Ⅱ-20	手話奉仕員養成以外の手話に関する講座等の目的は何ですか。（複数回答）					
	1　手話の普及、拡大のための講座等			○		1
	2　手話通訳者養成につなげるための補習的講座等				○	1
	3　その他					0
問Ⅱ-21	「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。					
	1　名　称			神奈川県手話推進計画　手話講習会		1
	2　回　数			1回		1
	3　時間数			2時間		1
	4　定　員			70名		1
	5　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）					0
	（1）聴覚障害者			○		1
	（2）手話通訳者、手話通訳士			○		1
	（3）その他					0
	6　内　容			聴覚障害者へのサポートの仕方や、あいさつなどの簡単な手話について学ぶ		1
問Ⅱ-22	「手話の普及、拡大のための講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば、記載してください。					
	（回答欄）					0
問Ⅱ-23	「手話の普及、拡大のための講座等」の課題は、何だと思いますか。具体的に記載してください。					
	（回答欄）			一般参加（県民）が少なかった。また開催時間を長くしても良かった。		1
問Ⅱ-24	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。					

	1 名 称				中級	1
	2 回 数				20回	1
	3 時間数				40時間（1回2時間）	1
	4 定 員				20人	1
	5 テキスト				自作	1
	6 内 容				基本文法	1
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）					
	（1）聴覚障害者				○	1
	（2）手話通訳者、手話通訳士				○	1
	（3）その他					1
問Ⅱ-25	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。手話通訳者養成につなげるために聴覚障害者との会話や手話の表現、読み取りなどは十分に向上しましたか。**					
	1 十分に向上した					0
	2 相当向上した					0
	3 ある程度向上した				○	1
	4 なかなか向上しない					0
	5 向上しない					0
	6 その他					0
問Ⅱ-26	**「なかなか向上しない」、「向上しない」と回答した市町村に伺います。どのあたりの向上が難しいですか。（複数回答）**					
	1 聴覚障害者との会話					0
	2 手話の表現					0
	3 手話の読み取り					0
	4 その他					0
問Ⅱ-27	**「向上が難しい」理由は何だと思いますか。**					
	1 予算が足りないため、十分な講習時間を確保できない					0
	2 指導講師が足りない					0
	3 その他					0
問Ⅱ-28	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば記載してください。**					
	（回答欄）					0

問Ⅱ-29	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」の課題は何だと思いますか。具体的に記載してください。**					
	（回答欄）					0
問Ⅱ-30	**「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**					
	1　名　称					0
	2　回　数					0
	3　時間数					0
	4　定　員					0
	5　内　容					0
	6　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）					
	（1）聴覚障害者					0
	（2）手話通訳者、手話通訳士					0
	（3）その他					0
問Ⅱ-31	**「その他」と回答した市町村に伺います。平成30年度に改善、変更があった事項を記載してください。**					
	（回答欄）					0
問Ⅱ-32	**平成30年度は手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか、または実施しますか。**					
	1　実施した、または実施の予定					0
	2　実施しない		○	○	○	3
	3　検討中					0
問Ⅱ-33	**「実施した、または実施の予定」の市町村に伺います。目的は何ですか。（複数回答）**					
	1　手話の普及、拡大のための講座等					0
	2　手話通訳者養成につなげるための補習的講座等					0
	3　その他					0
問Ⅱ-34	**「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**					
	1　名　称					0
	2　回　数					0
	3　時間数					0
	4　定　員					0
	5　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）					
	（1）聴覚障害者					0
	（2）手話通訳者、手話通訳士					0
	（3）その他					0

	6 内 容					0
問Ⅱ-35	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。					
	1 名 称					0
	2 回 数					0
	3 時間数					0
	4 定 員					0
	5 テキスト					0
	6 内 容					0
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）					
	（1）聴覚障害者					0
	（2）手話通訳者、手話通訳士					0
	（3）その他					0
問Ⅱ-36	「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。					
	1 名 称					0
	2 回 数					0
	3 時間数					0
	4 定 員					0
	5 内 容					0
	6 講 師（該当するもの全てに○印、「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）					
	（1）聴覚障害者					0
	（2）手話通訳者、手話通訳士					0
	（3）その他					0
問Ⅱ-37	市町村の手話奉仕員養成が、県の手話通訳者養成になかなかつながらない現状があります。その理由は何だと思いますか。（複数回答）					
	1 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（学科試験）			○	○	2
	2 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（技術試験）			○	○	2
	3 講習会場が藤沢なので、受講しにくい					0
	4 手話奉仕員養成で、十分な内容の講習ができていない				○	1

	5　その他		市町村の手話通訳講座の後で、改めて時間を取って神奈川県の通訳者養成につなげることが、難しい状況があるのではないか。	定員が少なすぎる	○	3
問Ⅱ-38	**県の手話通訳者資格取得のためには、手話学習経験が何年程度必要と思いますか。**					
	1　2年					0
	2　3年					0
	3　4年				○	1
	4　5年		○			1
	5　6年			○		1
	6　7年					0
	7　8年					0
	8　9年					0
	9　10年					0
	10　その他					0
問Ⅱ-39	**県の手話通訳者養成に改善を希望することは何ですか。（複数回答）**					
	1　養成コースの複数化		○	○	○	3
	2　養成コースの地域開催			○		1
	3　養成コースの充実			○	○	2
	4　再受験者対策の充実		○	○		2
	5　合格基準の緩和			○		1
	6　その他					0
問Ⅱ-40	**県の手話通訳者養成が、平成30年度から講習回数拡大、面接試験導入等大きく改編されることを知っていますか。**					
	1　知っている		○	○	○	3
	2　知らない					0
問Ⅱ-41	**手話通訳者を増やしていくために、どんなことが必要だと思いますか。（複数回答）**					
	市町村での取り組み					
	1　聴覚障害者との交流促進		○	○		2
	2　手話、聴覚障害者理解の普及		○	○		2
	3　手話奉仕員養成の充実			○	○	2
	4　手話通訳者の身分保障		○		○	2
	5　その他					0
	県での取り組み					
	1　手話通訳者養成講習会の充実			○	○	2
	2　手話通訳者の身分保障		○		○	2
	3　手話、聴覚障害者理解の普及		○	○		2
	4　市町村手話奉仕員養成と県手話通訳者養成をつなげる工夫		○	○	○	3
	5　財政的な支援		○	○		2
	6　その他					0
問Ⅱ-42	**手話奉仕員養成、手話通訳者養成等について意見があれば、自由に記載してください。**					

	（回答欄）		特になし	なし	手話通訳者養成につなげるための補習的講座について、町レベルで行うと参加者が足りない状態が続いている。市町村で輪番制にするか、在勤対象者も受講可	3
問Ⅱ-43	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等実施しましたか。**					
	1　実施した			○	○	2
	2　実施していない		○			1
問Ⅱ-44	**「実施した」と回答した市町村に伺います。具体的にどんな内容でしたか。**					
	1　名　称			職員新採用研修会	新採用職員研修	2
	2　対　象			新採用職員	新採用職員	2
	3　回　数			1回	1回	2
	4　時間数			30分程度	20分	2
	5　定　員			採用職員数による		1
	6　内　容（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）					
	（1）聴覚障害に関する講演					0
	（2）聴覚障害者の体験談					0
	（3）手話講習			○	○	2
	（4）その他					2
	7　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）					
	（1）聴覚障害者					0
	（2）手話通訳者、手話通訳士				○	1
	（3）その他			○		2
問Ⅱ-45	**「実施していない」と回答した市町村に伺います。実施していない理由は何ですか。（複数回答）**					
	1　必要性を感じないから					0
	2　時間的に余裕がないから					0
	3　予算が確保できないから					0
	4　講師がいないから					0
	5　運営が大変だから					0
	6　その他		障がいのある方への配慮と支援について記載したサポートブックを職員全員に配布し、障がいのある方への配慮を促している。			1
問Ⅱ-46	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等について、平成30年度に改善、変更したことがあれば記載ください。**					
	（回答欄）			なし		1

Ⅱ　手話奉仕員養成等

保健福祉圏			湘南西部					
市町村名			平塚市	秦野市	伊勢原市	大磯町	二宮町	湘南西部
質問及び回答選択肢等		回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	
問Ⅱ-1	平成29年度に、手話奉仕員養成を実施しましたか。							
	1　実施した		○	○	○	○	○	5
	2　実施していない							0
問Ⅱ-2	どんなカリキュラムで実施しましたか。							
	1　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程		○		○		○	3
	2　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施			○		○		2
	3　独自のカリキュラム							0
	4　その他							0
問Ⅱ-3	実施形態について伺います。							
	1　市町村独自に実施							0
	2　聴覚障害者協会に委託		○	○	○	○	○	5
	3　手話サークルに委託							0
	4　社会福祉団体に委託							0
	5　その他					中郡手話通訳者連絡会		1
問Ⅱ-4	講習の名称、回数、時間数等を記載してください。							
	1　名　称		平塚市手話講習会(入門・基礎コース)	秦野市手話入門・基礎講座	平成29年度手話奉仕員養成講座(続・基礎課程)	平成29年度　大磯町手話講習会	手話入門基礎講座	5
	2　回　数		40回	40回	42回	計20回(昼の部・夜の部あり)	40回	5
	3　時間数		80時間(2h/1回×40)	60時間(1回/1.5時間)	84時間	30j時間(1回、1時間30分)	60時間	5
	4　定　員		25人	30人	20人	20人	20人	5
	5　受講人数		17人	26人	24人	昼13人　夜17人	12人	5
	6　修了人数		17人	24人	16人	昼13人　夜17人		4
問Ⅱ-5	実技講師はどなたが担いましたか。							
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○	○	○	5
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア							0
	3　聴覚障害者協会会員のみ							0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ							0
	5　その他							0
問Ⅱ-6	講義講師はどなたが担いましたか。(複数回答)							
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○毎回のミニ講演あり	○	○	○	○	5
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア							0
	3　聴覚障害者協会会員のみ							0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ							0
	5　外部講師		○2回			○		2
	6　その他							0
問Ⅱ-7	手話奉仕員養成目標「手話を習得し、地域の聴覚障害者と手話で会話ができ、習得した手話等を活用して、地域の聴覚障害者団体の行事への参加や、手話サークル活動への参加等、手話活動を行う」を達成できていますか。							

	1　達成できている			○	○	○	○	4
	2　達成できていない		○					1
	3　その他							0
問Ⅱ-8	**手話奉仕員養成目標が「達成できていない」と回答した市町村に伺います。達成できていないのは、どの部分ですか。（複数回答）**							
	1　聴覚障害者と、手話で会話ができない（該当するものすべてに○をしてください）							0
	（1）会話に必要な知識が身についていない							0
	（2）会話に必要な技術が身についていない							0
	2　聴覚障害者団体の行事へ参加が不十分		○					1
	3　手話サークル活動への参加が不十分		○					1
	4　その他							1
問Ⅱ-9	**目標が達成できない原因は何だと感じていますか。（複数回答）**							
	1　予算が足りないため、十分な講習時間が確保できない。							0
	2　指導講師が足りない。							0
	3　その他		イベントの案内はこまめにしているが、(仕事などで)忙しい受講者が多く、講習会以外のイベントへの参加を強制できない					1
問Ⅱ-10	**手話奉仕員養成を実施するにあたっての課題は何だと思いますか。（複数回答）**							
	1　講師不足		○	○	○			3
	2　聴覚障害者との交流促進		○	○				2
	3　受講者不足				○	○		2
	4　受講者のレベルに合わせた講習実施				○	○	○	3
	5　運営が大変				○	○		2
	6　その他							0
問Ⅱ-11	**平成30年度の手話奉仕員養成で改善、変更があったものがあれば記載してください。**							
	（回答欄）							0
問Ⅱ-12	**「実施していない」理由は何ですか。（複数回答）**							
	1　予算が確保できない							0
	2　会場が確保できない							0
	3　講師が確保できない							0
	4　運営が大変だから							0
	5　その他							0
問Ⅱ-13	**平成30年度は実施しましたか。または、実施しますか。**							
	1　実施する、または実施した		○	○	○	○	○	5
	2　実施しない							0
問Ⅱ-14	**「実施する、または実施した」と回答した市町村に伺います。どんなカリキュラムで実施または実施予定ですか。**							
	1　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程		○		○		○	3
	2　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施			○		○		2
	3　独自のカリキュラム							0
	4　その他							0
問Ⅱ-15	**実施形態について伺います。**							
	1　市町村独自に実施							0
	2　聴覚障害者協会に委託		○	○	○	○	○	5
	3　手話サークルに委託							0
	4　社会福祉団体に委託							0
	5　その他					中郡手話通訳者連絡会		1
問Ⅱ-16	**講習の名称、回数、時間数等を記載してください。**							
	1　名　称		平塚市手話講習会(入門・基礎コース)	秦野市手話入門・基礎講座	入門課程・基礎課程	平成30年度　大磯町手話講習会	手話入門基礎講座	5
	2　回　数		40回	1.5回	41回（18回・23回）	計20回（昼の部・夜の部あり）	40回	5
	3　時間数		80時間（2時間×40回）	40時間	82時間（36時間・46時間）	30時間（1回、1時間30分）	60時間	5

	4 定 員		25人	30人	60人（30人・30人）	20人	20人	5
	5 受講人数（実施済の場合記載）		26人（実施中）		19人（入門課程）	昼17人 夜14人		3
	6 修了人数（実施済の場合記載）				12人（入門課程）			1
問Ⅱ-17	**実技講師はどなたが担いましたか。または、担う予定ですか。**							
	1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○	○	○	5
	2 聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア							0
	3 聴覚障害者協会会員のみ							0
	4 手話通訳者または手話サークル会員のみ							0
	5 その他							0
問Ⅱ-18	**平成29年度、30年度とも手話奉仕員養成を「実施しない」市町村に伺います。今後、実施する予定はありますか。**							
	1 実施する予定がある（平成 年度）							0
	2 実施する予定はない							0
	3 検討中							0
問Ⅱ-19	**平成29年度に、手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか**							
	1 実施した		○	○			○	3
	2 実施していない				○	○		2
	3 その他							0
問Ⅱ-20	**手話奉仕員養成以外の手話に関する講座等の目的は何ですか。（複数回答）**							
	1 手話の普及、拡大のための講座等		○					1
	2 手話通訳者養成につなげるための補習的講座等		○	○			○	3
	3 その他							0
問Ⅱ-21	**「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**							
	1 名 称		平塚市手話講習会 （基礎レベルアップ 昼コース・夜コース）					1
	2 回 数		昼コース10回、夜コース10回）					1
	3 時間数		昼20時間（2時間×10回）、 夜20時間（2時間×10回）					1
	4 定 員		昼20人・夜20人					1
	5 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）							0
	（1）聴覚障害者		○					1
	（2）手話通訳者、手話通訳士		○					1
	（3）その他							1
	6 内 容		手話を継続して学んでもらえるよう、入門基礎の復習など					1
問Ⅱ-22	**「手話の普及、拡大のための講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば、記載してください。**							
	（回答欄）							0
問Ⅱ-23	**「手話の普及、拡大のための講座等」の課題は、何だと思いますか。具体的に記載してください。**							
	（回答欄）		繰り返し受講する方への教材をその都度変更するなどの準備が大変、レベル差もあり、教材の使い方に工夫が必要					1
問Ⅱ-24	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**							
	1 名 称		平塚市手話通訳者養成講習会	秦野市手話通訳者養成講座			ステップアップ手話講習会	3
	2 回 数		12回	10回			5回	3
	3 時間数		18時間（1.5時間×12回）	15時間（1回/1.5時間）			10時間	3

	4 定 員		特に設定せず、受講条件に該当すれば受講可	10人			15人	3
	5 テキスト		なし	なし			独自作成	3
	6 内 容		聞き取り・読み取り・要約・場面通訳	読み取り・聞き取り・場面通訳・ 見て通訳・模擬試験			手話通訳者を目指す方に向けた技術、知識の向上を目的とした講座	3
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者		○	○			○	3
	（2）手話通訳者、手話通訳士		○	○			○	3
	（3）その他							3
問Ⅱ-25	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。手話通訳者養成につなげるために聴覚障害者との会話や手話の表現、読み取りなどは十分に向上しましたか。**							
	1 十分に向上した							0
	2 相当向上した		○					1
	3 ある程度向上した			○			○	2
	4 なかなか向上しない							0
	5 向上しない							0
	6 その他							0
問Ⅱ-26	**「なかなか向上しない」、「向上しない」と回答した市町村に伺います。どのあたりの向上が難しいですか。（複数回答）**							
	1 聴覚障害者との会話							0
	2 手話の表現							0
	3 手話の読み取り							0
	4 その他							0
問Ⅱ-27	**「向上が難しい」理由は何だと思いますか。**							
	1 予算が足りないため、十分な講習時間を確保できない							0
	2 指導講師が足りない							0
	3 その他							0
問Ⅱ-28	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば記載してください。**							
	（回答欄）		H29年8月～11月→H30年5月～11月、月1～2回自宅学習を促しながら継続した学習環境を提供できるようにした。	回数を10回から20回に増加				2
問Ⅱ-29	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」の課題は何だと思いますか。具体的に記載してください。**							
	（回答欄）		教材の準備				受講者の募集	2
問Ⅱ-30	**「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**							
	1 名 称							0
	2 回 数							0
	3 時間数							0
	4 定 員							0
	5 内 容							0
	6 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者							0
	（2）手話通訳者、手話通訳士							0
	（3）その他							1
問Ⅱ-31	**「その他」と回答した市町村に伺います。平成30年度に改善、変更があった事項を記載してください。**							
	（回答欄）							0
問Ⅱ-32	**平成30年度は手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか、または実施しますか。**							
	1 実施した、または実施の予定		○	○			○	3
	2 実施しない				○	○		2
	3 検討中							0

問Ⅱ-33	「実施した、または実施の予定」の市町村に伺います。目的は何ですか。（複数回答）							
	1　手話の普及、拡大のための講座等		○					1
	2　手話通訳者養成につなげるための補習的講座等		○	○			○	3
	3　その他							0
問Ⅱ-34	「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。							
	1　名　称		平塚市手話講習会 （基礎レベルアップ　昼コース・夜コース）					1
	2　回　数		昼コース10回、夜コース10回）					1
	3　時間数		昼20時間（2時間×10回）、 夜20時間（2時間×10回）					1
	4　定　員		昼20人・夜20人					1
	5　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者		○					1
	（2）手話通訳者、手話通訳士		○					1
	（3）その他							0
	6　内　容							0
問Ⅱ-35	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。							
	1　名　称		平塚市手話通訳者養成講習会	秦野市手話通訳者養成講座			ステップアップ手話講習会	3
	2　回　数		11回	20回			5回	3
	3　時間数		16.5時間（1時間30分×11回）	30時間（1回/1.5時間）			10時間	3
	4　定　員		特に設定せず、受講条件に該当すれば受講可	10人			15人	3
	5　テキスト		なし	なし			独自作成	3
	6　内　容		聞き取り・読み取り・要約・場面通訳	読み取り・聞き取り・場面通訳・ 見て通訳・模擬試験			手話通訳者を目指す方に向けた技術、知識の向上を目的とした講座	3
	7　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者		○	○			○	3
	（2）手話通訳者、手話通訳士		○	○			○	3
	（3）その他							3
問Ⅱ-36	「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。							
	1　名　称							0
	2　回　数							0
	3　時間数							0
	4　定　員							0
	5　内　容							0
	6　講　師（該当するもの全てに○印、「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）							
	（1）聴覚障害者							0
	（2）手話通訳者、手話通訳士							0
	（3）その他							0
問Ⅱ-37	市町村の手話奉仕員養成が、県の手話通訳者養成になかなかつながらない現状があります。その理由は何だと思いますか。（複数回答）							
	1　手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（学科試験）						○	1
	2　手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（技術試験）						○	1
	3　講習会場が藤沢なので、受講しにくい			○				1
	4　手話奉仕員養成で、十分な内容の講習ができていない				○			1

	5 その他		○					1
問Ⅱ-38	**県の手話通訳者資格取得のためには、手話学習経験が何年程度必要と思いますか。**							
	1 2年							0
	2 3年			○	○			2
	3 4年						○	1
	4 5年		○					1
	5 6年							0
	6 7年							0
	7 8年							0
	8 9年							0
	9 10年							0
	10 その他							0
問Ⅱ-39	**県の手話通訳者養成に改善を希望することは何ですか。（複数回答）**							
	1 養成コースの複数化		○	○			○	3
	2 養成コースの地域開催			○	○	○		3
	3 養成コースの充実							0
	4 再受験者対策の充実		○不合格者へのフォロー、講習会充実	○		○	○	4
	5 合格基準の緩和							0
	6 その他							0
問Ⅱ-40	**県の手話通訳者養成が、平成30年度から講習回数拡大、面接試験導入等大きく改編されることを知っていますか。**							
	1 知っている		○				○	2
	2 知らない			○	○	○		3
問Ⅱ-41	**手話通訳者を増やしていくために、どんなことが必要だと思いますか。（複数回答）**							
	市町村での取り組み							
	1 聴覚障害者との交流促進			○	○			2
	2 手話、聴覚障害者理解の普及		○	○	○	○	○	5
	3 手話奉仕員養成の充実			○	○	○		3
	4 手話通訳者の身分保障		○			○	○	3
	5 その他							0
	県での取り組み							
	1 手話通訳者養成講習会の充実		○	○		○		3
	2 手話通訳者の身分保障		○	○		○	○	4
	3 手話、聴覚障害者理解の普及		○	○		○		3
	4 市町村手話奉仕員養成と県手話通訳者養成をつなげる工夫		○		○	○	○	4
	5 財政的な支援					○	○	2
	6 その他							0
問Ⅱ-42	**手話奉仕員養成、手話通訳者養成等について意見があれば、自由に記載してください。**							
	（回答欄）							0
問Ⅱ-43	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等実施しましたか。**							
	1 実施した		○新採用職員研修					1
	2 実施していない			○	○	○	○	4
問Ⅱ-44	**「実施した」と回答した市町村に伺います。具体的にどんな内容でしたか。**							
	1 名 称		聴覚障がい者への配慮と手話実技					1
	2 対 象		新採用職員					1
	3 回 数		1回					1
	4 時間数		50分					1
	5 定 員		特になし 25～30人で2グループに分けて行った					1
	6 内 容（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）							
	（1）聴覚障害に関する講演		○					1

	(2)聴覚障害者の体験談							0
	(3)手話講習		○					1
	(4)その他		窓口対応時の留意点					1
	7　講　師(該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。)							
	(1)聴覚障害者							0
	(2)手話通訳者、手話通訳士		○設置手話通訳者					1
	(3)その他							1
問Ⅱ-45	**「実施していない」と回答した市町村に伺います。実施していない理由は何ですか。(複数回答)**							
	1　必要性を感じないから							0
	2　時間的に余裕がないから			○	○			2
	3　予算が確保できないから			○				1
	4　講師がいないから				○			1
	5　運営が大変だから							0
	6　その他					聴覚障害者に特化していないが、新採用職員に対して、障害者に対する研修は実施している。	○	2
問Ⅱ-46	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等について、平成30年度に改善、変更したことがあれば記載ください。**							
	(回答欄)						障がい者(特に聴覚障害)の理解促進のための研修を年度内に実施予定	1

Ⅱ　手話奉仕員養成等

保健福祉圏			県　央							
市町村名			厚木市	大和市	海老名市	座間市	綾瀬市	愛川町	清川村	県央
質問及び回答選択肢等		回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	
問Ⅱ-1	平成29年度に、手話奉仕員養成を実施しましたか。									
	1　実施した		○	○	○	○	○	○		6
	2　実施していない								○	1
問Ⅱ-2	どんなカリキュラムで実施しましたか。									
	1　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程			○	○	○	○			4
	2　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施		○					○		2
	3　独自のカリキュラム									0
	4　その他									0
問Ⅱ-3	実施形態について伺います。									
	1　市町村独自に実施							○		1
	2　聴覚障害者協会に委託		○		○	○	○			4
	3　手話サークルに委託									0
	4　社会福祉団体に委託			○						1
	5　その他									0
問Ⅱ-4	講習の名称、回数、時間数等を記載してください。									
	1　名　称		①手話奉仕員養成講習会（入門課程） ②手話奉仕員養成講習会（基礎課程）	手話奉仕員養成事業	手話入門講習会	手話講座（初級・中級）	手話奉仕員養成講座	手話奉仕員養成講座 ～基礎課程～		6
	2　回　数		40回（①18回　②22回）	40回	40回	45回	40回	23回		6
	3　時間数		80時間（①36時間 ②44時間）	80時間	80時間（1回2時間）	67.5時間	80時間	45時間		6
	4　定　員		①40人　②40人	30人	25人	20人	15人	30人		6
	5　受講人数		①26人　②18人	33人	17人	22人	15人	10人		6
	6　修了人数		①23人　②17人	24人	8人	20人	13人	9人		6
問Ⅱ-5	実技講師はどなたが担いましたか。									
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○	○	○	○		6
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア									0
	3　聴覚障害者協会会員のみ									0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ									0
	5　その他									0
問Ⅱ-6	講義講師はどなたが担いましたか。（複数回答）									
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○			○		4
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア									0
	3　聴覚障害者協会会員のみ						○			1
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ					○				1
	5　外部講師									0
	6　その他		障がい福祉課職員	市職員や言語聴覚士等の講義あり			○	町職員		4
問Ⅱ-7	手話奉仕員養成目標「手話を習得し、地域の聴覚障害者と手話で会話ができ、習得した手話等を活用して、地域の聴覚障害者団体の行事への参加や、手話サークル活動への参加等、手話活動を行う」を達成できていますか。									
	1　達成できている		○	○	○	○	○	○		6
	2　達成できていない									0
	3　その他									0
問Ⅱ-8	手話奉仕員養成目標が「達成できていない」と回答した市町村に伺います。達成できていないのは、どの部分ですか。（複数回答）									
	1　聴覚障害者と、手話で会話ができない（該当するものすべてに○をしてください）									0
	（1）会話に必要な知識が身についていない									0
	（2）会話に必要な技術が身についていない									0
	2　聴覚障害者団体の行事へ参加が不十分									0
	3　手話サークル活動への参加が不十分									0
	4　その他									0
問Ⅱ-9	目標が達成できない原因は何だと感じていますか。（複数回答）									
	1　予算が足りないため、十分な講習時間が確保できない。									0
	2　指導講師が足りない。									0

	3 その他									0
問Ⅱ-10	手話奉仕員養成を実施するにあたっての課題は何だと思いますか。（複数回答）									
	1 講師不足		○		○					2
	2 聴覚障害者との交流促進		○	○				○		3
	3 受講者不足		○				○	○		3
	4 受講者のレベルに合わせた講習実施			○		○				2
	5 運営が大変									0
	6 その他									0
問Ⅱ-11	平成30年度の手話奉仕員養成で改善、変更があったものがあれば記載してください。									
	（回答欄）				特になし		名称を「手話奉仕員養成講座」からより市民が親しみやすいよう「手話入門講座」 とした			2
問Ⅱ-12	「実施していない」理由は何ですか。（複数回答）									
	1 予算が確保できない									0
	2 会場が確保できない									0
	3 講師が確保できない									0
	4 運営が大変だから									0
	5 その他								開催要望等がないため	1
問Ⅱ-13	平成30年度は実施しましたか。または、実施しますか。									
	1 実施する、または実施した		○	○	○	○	○	○		6
	2 実施しない								○	1
問Ⅱ-14	「実施する、または実施した」と回答した市町村に伺います。どんなカリキュラムで実施または実施予定ですか。									
	1 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程			○	○	○	○			4
	2 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施		○					○		2
	3 独自のカリキュラム									0
	4 その他									0
問Ⅱ-15	実施形態について伺います。									
	1 市町村独自に実施							○		1
	2 聴覚障害者協会に委託		○		○	○	○			4
	3 手話サークルに委託									0
	4 社会福祉団体に委託			○						1
	5 その他									0
問Ⅱ-16	講習の名称、回数、時間数等を記載してください。									
	1 名 称		①手話奉仕員養成講習会（入門課程） ②手話奉仕員養成講習会（基礎課程）	手話奉仕員養成事業	手話入門講習会	手話講座（初級・中級）	手話入門講座	手話奉仕員養成講座 ～入門課程～		6
	2 回 数		43回（①20回 ②23回）	40回	40回	45回	40回	18回		6
	3 時間数		86時間（①40時間 ②46時間）	80時間	80時間（1回2時間）	67.5時間	80時間	34時間		6
	4 定 員		①40人 ②40人	30人	25人	20人	15人	30人		6
	5 受講人数（実施済の場合記載）		①42人	22人	15人	22人	12人	15人		6
	6 修了人数（実施済の場合記載）							12人		2
問Ⅱ-17	実技講師はどなたが担いましたか。または、担う予定ですか。									
	1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○	○	○	○		6
	2 聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア									0
	3 聴覚障害者協会会員のみ									0
	4 手話通訳者または手話サークル会員のみ									0
	5 その他									0
問Ⅱ-18	平成29年度、30年度とも手話奉仕員養成を「実施しない」市町村に伺います。今後、実施する予定はありますか。									
	1 実施する予定がある（平成 年度）									0
	2 実施する予定はない								○	1
	3 検討中									0
問Ⅱ-19	平成29年度に、手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか。									
	1 実施した		○	○	○		○			4
	2 実施していない					○		○	○	3
	3 その他									0
問Ⅱ-20	手話奉仕員養成以外の手話に関する講座等の目的は何ですか。（複数回答）									
	1 手話の普及、拡大のための講座等									0
	2 手話通訳者養成につなげるための補習的講座等		○	○	○					3
	3 その他						○			1
問Ⅱ-21	「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。									
	1 名 称									0

	2 回 数									0
	3 時間数									0
	4 定 員									0
	5 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）									0
	（1）聴覚障害者									0
	（2）手話通訳者、手話通訳士									0
	（3）その他									0
	6 内 容									0
問Ⅱ-22	「手話の普及、拡大のための講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば、記載してください。									
	（回答欄）									0
問Ⅱ-23	「手話の普及、拡大のための講座等」の課題は、何だと思いますか。具体的に記載してください。									
	（回答欄）									0
問Ⅱ-24	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。									
	1 名 称		①手話通訳者養成講習会 ②試験対策 ③レベルアップ講座	大和市手話通訳者養成事業	手話通訳者養成講習会					3
	2 回 数		41回（①30回②5回③6回）	30回	45回					3
	3 時間数		82時間（①60時間②10時間③12時間）	60時間	90時間（1回2時間）					3
	4 定 員		①②③ 無し	20人	25人					3
	5 テキスト		①②③ 担当講師がその都度作成	オリジナル教材を使用	なし					3
	6 内 容		神奈川県手話通訳者養成講習会技術試験及び統一試験合格のための講習	県養成講座受講、統一試験・認定試験へのフォロー講座	厚生労働省のテキストの内容に準ずる					3
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）									
	（1）聴覚障害者		○	○	○					3
	（2）手話通訳者、手話通訳士		○	○	○					3
	（3）その他				外部講師					3
問Ⅱ-25	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。手話通訳者養成につなげるために聴覚障害者との会話や手話の表現、読み取りなどは十分に向上しましたか。									
	1 十分に向上した									0
	2 相当向上した			○						1
	3 ある程度向上した				○					1
	4 なかなか向上しない		○							1
	5 向上しない									0
	6 その他									0
問Ⅱ-26	「なかなか向上しない」、「向上しない」と回答した市町村に伺います。どのあたりの向上が難しいですか。（複数回答）									
	1 聴覚障害者との会話									0
	2 手話の表現									0
	3 手話の読み取り		○							1
	4 その他		試験の合格者がいなかったため							1
問Ⅱ-27	「向上が難しい」理由は何だと思いますか。									
	1 予算が足りないため、十分な講習時間を確保できない									0
	2 指導講師が足りない									0
	3 その他		試験のハードルが高い（回数、実施日など）							1
問Ⅱ-28	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば記載してください。									
	（回答欄）				特になし					1
問Ⅱ-29	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」の課題は何だと思いますか。具体的に記載してください。									
	（回答欄）		特になし	県の養成講座を受講するためや、統一試験、認定試験へのフォローアップが主な目的ですが、コースが画一的なため、個々の受講者のレベルに沿った対応がなかなか難しい。	講師が不足している。					3
問Ⅱ-30	「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。									
	1 名 称						手話通訳者養成講座			1
	2 回 数						25回			1
	3 時間数						50時間			1
	4 定 員						15人			1
	5 内 容						県試験を受ける人のための講座			1

	6 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）									
	（1）聴覚障害者						○			1
	（2）手話通訳者、手話通訳士						○			1
	（3）その他									3
問Ⅱ-31	**「その他」と回答した市町村に伺います。平成30年度に改善、変更があった事項を記載してください。**									
	（回答欄）									0
問Ⅱ-32	**平成30年度は手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか、または実施しますか。**									
	1 実施した、または実施の予定		○	○	○		○			4
	2 実施しない					○		○	○	3
	3 検討中									0
問Ⅱ-33	**「実施した、または実施の予定」の市町村に伺います。目的は何ですか。（複数回答）**									
	1 手話の普及、拡大のための講座等									0
	2 手話通訳者養成につなげるための補習的講座等		○	○	○					3
	3 その他						○			1
問Ⅱ-34	**「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**									
	1 名 称				手話通訳者養成講習会					1
	2 回 数				45回					1
	3 時間数				90時間（1回2時間）					1
	4 定 員				25人					1
	5 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）									
	（1）聴覚障害者				○					1
	（2）手話通訳者、手話通訳士				○					1
	（3）その他				外部講師					1
	6 内 容									0
問Ⅱ-35	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**									
	1 名 称		①手話通訳者養成講習会 ②試験対策 ③レベルアップ講座	大和市手話通訳者養成事業						2
	2 回 数		45回（①30回②5回③10回）	30回						2
	3 時間数		90時間（①60時間②10時間③20時間）	60時間						2
	4 定 員		①②③ 無し	20人						2
	5 テキスト		①②③ 担当講師がその都度作成	オリジナル教材を使用						2
	6 内 容		神奈川県手話通訳者養成講習会技術試験及び統一試験合格のための講習	県養成講座受講、統一試験・認定試験へのフォロー講座						2
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）									
	（1）聴覚障害者		○	○						2
	（2）手話通訳者、手話通訳士		○	○						2
	（3）その他									2
問Ⅱ-36	**「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。**									
	1 名 称						手話通訳者養成講座			1
	2 回 数						25回			1
	3 時間数						50時間			1
	4 定 員						15人			1
	5 内 容						県試験を受ける人のための講座			1
	6 講 師（該当するもの全てに○印、「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）									
	（1）聴覚障害者						○			1
	（2）手話通訳者、手話通訳士						○			1
	（3）その他									1
問Ⅱ-37	**市町村の手話奉仕員養成が、県の手話通訳者養成になかなかつながらない現状があります。その理由は何だと思いますか。（複数回答）**									
	1 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（学科試験）		○	○			○			3
	2 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（技術試験）		○	○			○			3
	3 講習会場が藤沢なので、受講しにくい				○		○			2
	4 手話奉仕員養成で、十分な内容の講習ができていない						○			1

	5 その他			講習の回数が多い		通訳者を目指すより、興味本位の受講者が多く奉仕員養成講座で満足している。また通訳者の資格を目標にしたいが、県の講習会に行く時間がない		通訳者を目指す受講生が少ない	現状を把握していないためわからない	4
問Ⅱ−38	**県の手話通訳者資格取得のためには、手話学習経験が何年程度必要と思いますか。**									
	1 2年									0
	2 3年							○		1
	3 4年									0
	4 5年			○		○				2
	5 6年		○		○					2
	6 7年									0
	7 8年									0
	8 9年									0
	9 10年									0
	10 その他						個人の状況によるので一概に言えない		現状を把握していないためわからない	2
問Ⅱ−39	**県の手話通訳者養成に改善を希望することは何ですか。（複数回答）**									
	1 養成コースの複数化			○	○	○				3
	2 養成コースの地域開催		○		○		○	○		4
	3 養成コースの充実			○	○		○			3
	4 再受験者対策の充実		○	○	○		○			4
	5 合格基準の緩和		○							1
	6 その他									0
問Ⅱ−40	**県の手話通訳者養成が、平成30年度から講習回数拡大、面接試験導入等大きく改編されることを知っていますか。**									
	1 知っている		○	○	○	○	○			5
	2 知らない							○	○	2
問Ⅱ−41	**手話通訳者を増やしていくために、どんなことが必要だと思いますか。（複数回答）**									
	市町村での取り組み									
	1 聴覚障害者との交流促進			○	○		○	○		4
	2 手話、聴覚障害者理解の普及		○	○	○		○	○	○	6
	3 手話奉仕員養成の充実		○				○	○		3
	4 手話通訳者の身分保障		○	○	○	○	○			5
	5 その他									0
	県での取り組み									
	1 手話通訳者養成講習会の充実		○	○	○	○		○	○	6
	2 手話通訳者の身分保障		○	○	○	○	○	○		6
	3 手話、聴覚障害者理解の普及		○	○	○		○	○		5
	4 市町村手話奉仕員養成と県手話通訳者養成をつなげる工夫		○	○	○		○	○		5
	5 財政的な支援			○	○	○	○	○		5
	6 その他									0
問Ⅱ−42	**手話奉仕員養成、手話通訳者養成等について意見があれば、自由に記載してください。**									
	（回答欄）			様々なレベルの方がいるので、画一的な講習ではなかなかフォローができず、講師の確保や財源的にも難しいかと思います。県の講習会を受講できる人数を増やすなどの対応も必要かと思います。	特になし					2
問Ⅱ−43	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等実施しましたか。**									
	1 実施した				○	○				2
	2 実施していない		○	○			○	○	○	5
問Ⅱ−44	**「実施した」と回答した市町村に伺います。具体的にどんな内容でしたか。**									
	1 名 称				新採用職員研修	職員新人研修				2
	2 対 象				新採用職員	30年度新規採用職員				2
	3 回 数				1回	1回				2
	4 時間数				30分	1時間				2
	5 定 員				なし	20				2
	6 内 容（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）									
	（1）聴覚障害に関する講演				○	○				2
	（2）聴覚障害者の体験談				○					1
	（3）手話講習				○	○				2
	（4）その他									2
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）									
	（1）聴覚障害者				○					1
	（2）手話通訳者、手話通訳士					○				1
	（3）その他					障がい福祉課職員				2
問Ⅱ−45	**「実施していない」と回答した市町村に伺います。実施していない理由は何ですか。（複数回答）**									
	1 必要性を感じないから		○							1
	2 時間的に余裕がないから		○				○	○		3
	3 予算が確保できないから		○				○	○		3
	4 講師がいないから							○	○	2
	5 運営が大変だから							○		1
	6 その他			検討しています。			設置通訳者がいるので			2

問Ⅱ-46	市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等について、平成30年度に改善、変更したことがあれば記載ください。								
	（回答欄）								0

Ⅱ　手話奉仕員養成等

保健福祉圏		県　西										
市町村名		小田原市	南足柄市	中井町	大井町	松田町	山北町	開成町	箱根町	真鶴町	湯河原町	県西
質問及び回答選択肢等	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	回答欄	
問Ⅱ-1 平成29年度に、手話奉仕員養成を実施しましたか。												
1 実施した		○	○	○	○	○	○	○				7
2 実施していない									○	○	○	3
問Ⅱ-2 どんなカリキュラムで実施しましたか。												
1 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程				○	○	○	○	○				5
2 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施		○基礎課程	○									2
3 独自のカリキュラム												0
4 その他												0
問Ⅱ-3 実施形態について伺います。												
1 市町村独自に実施												0
2 聴覚障害者協会に委託			○足柄上地域	○	○	○	○	○				6
3 手話サークルに委託												0
4 社会福祉団体に委託												0
5 その他		○福祉団体と共催										1
問Ⅱ-4 講習の名称、回数、時間数等を記載してください。												
1 名　称		小田原市手話奉仕員養成講座（基礎課程）	平成29年度足柄上地域手話奉仕員養成講座	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会	平成29年度足柄上地区手話奉仕員養成講習会				7
2 回　数		22回	40回	40回（入門課程18回、基礎課程22回）	40回（入門過程18回、基礎課程22回）	40回（入門過程１８回、基礎課程２２回）	40回（入門過程１８回、基礎課程２２回）	40回（入門過程18回、基礎課程22回）				7
3 時間数		44時間	80時間（1回2時間）	80時間（入門課程36時間、基礎課程44時間）	80人（入門過程36時間、基礎課程44時間）	80人（入門過程３６時間、基礎課程４４時間）	80（入門過程３６時間、基礎課程４４時間）	80人（入門過程36時間、基礎課程44時間）				7
4 定　員		20人	25人	25人	25人	25人	25人	25人				7
5 受講人数		19人	7人（南足柄市）	24人	24人	24人	24人	24人				7
6 修了人数		15人	6人（南足柄市）	21人	21人	21人	21人	21人				7
問Ⅱ-5 実技講師はどなたが担いましたか。												
1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○	○	○		○				6
2 聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア												0
3 聴覚障害者協会会員のみ												0
4 手話通訳者または手話サークル会員のみ												0
5 その他												0
問Ⅱ-6 講義講師はどなたが担いましたか。（複数回答）												
1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○	○	○	○	○	○	○				7
2 聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア												0
3 聴覚障害者協会会員のみ												0
4 手話通訳者または手話サークル会員のみ												0
5 外部講師												0
6 その他		○障がい福祉課職員										1
問Ⅱ-7 手話奉仕員養成目標「手話を習得し、地域の聴覚障害者と手話で会話ができ、習得した手話等を活用して、地域の聴覚障害者団体の行事への参加や、手話サークル活動への参加等、手話活動を行う」を達成できていますか。												
1 達成できている		○		○	○	○	○	○				6
2 達成できていない			○									1
3 その他												0
問Ⅱ-8 手話奉仕員養成目標が「達成できていない」と回答した市町村に伺います。達成できていないのは、どの部分ですか。（複数回答）												
1 聴覚障害者と、手話で会話ができない（該当するものすべてに○をしてください）												0
（1）会話に必要な知識が身についていない												0
（2）会話に必要な技術が身についていない												0
2 聴覚障害者団体の行事へ参加が不十分												0
3 手話サークル活動への参加が不十分			○									1
4 その他												0
問Ⅱ-9 目標が達成できない原因は何だと感じていますか。（複数回答）												
1 予算が足りないため、十分な講習時間が確保できない。			○									1
2 指導講師が足りない。												0
3 その他												0
問Ⅱ-10 手話奉仕員養成を実施するにあたっての課題は何だと思いますか。（複数回答）												
1 講師不足												0
2 聴覚障害者との交流促進		○										1
3 受講者不足				○								1
4 受講者のレベルに合わせた講習実施			○									1
5 運営が大変			○	○	○		委託したものの、会場の準備を各市町村が行い且つ平日の夜に講習会を行ったため職員の負担が大きかった。	○（委託したものの、会場の準備を各市町村が行い且つ平日の夜に講習会を行ったため職員の負担が大きかった。）				5
6 その他												0
問Ⅱ-11 平成30年度の手話奉仕員養成で改替、変更があったものがあれば記載してください。												
（回答欄）												0
問Ⅱ-12 「実施していない」理由は何ですか。（複数回答）												
1 予算が確保できない											○	1
2 会場が確保できない												0
3 講師が確保できない												0
4 運営が大変だから											○	1
5 その他									手話奉仕員を必要とする対象者が少ないため	○		2
問Ⅱ-13 平成30年度は実施しましたか。または、実施しますか。												
1 実施する、または実施した		○										1
2 実施しない			○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
問Ⅱ-14 「実施する、または実施した」と回答した市町村に伺います。どんなカリキュラムで実施または実施予定ですか。												

	1 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程												0
	2 厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施		○										1
	3 独自のカリキュラム												0
	4 その他												0
問Ⅱ-15	**実施形態について例います。**												
	1 市町村独自に実施												0
	2 聴覚障害者協会に委託												0
	3 手話サークルに委託												0
	4 社会福祉団体に委託												0
	5 その他		○福祉団体と共催										1
問Ⅱ-16	**講習の名称、回数、時間数等を記載してください。**												
	1 名 称		小田原市手話奉仕員養成講座（入門課程）										1
	2 回 数		18回										1
	3 時間数		36時間										1
	4 定 員		20人										1
	5 受講人数（実施済の場合記載）		19人										1
	6 修了人数（実施済の場合記載）												0
問Ⅱ-17	**実技講師はどなたが担いましたか。または、担う予定ですか。**												
	1 聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア		○										1
	2 聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア												0
	3 聴覚障害者協会会員のみ												0
	4 手話通訳者または手話サークル会員のみ												0
	5 その他												0
問Ⅱ-18	**平成29年度、30年度とも手話奉仕員養成を「実施しない」市町村に例います。今後、実施する予定はありますか。**												
	1 実施する予定がある（平成　　年度）					○		○	○				3
	2 実施する予定はない									○			1
	3 検討中						○				○	○	3
問Ⅱ-19	**平成29年度に、手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか。**												
	1 実施した		○										1
	2 実施していない			○	○	○	○	○		○	○	○	8
	3 その他												0
問Ⅱ-20	**手話奉仕員養成以外の手話に関する講座等の目的は何ですか。（複数回答）**												
	1 手話の普及、拡大のための講座等		○										1
	2 手話通訳者養成につなげるための補習的講座等												0
	3 その他												0
問Ⅱ-21	**「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に例います。具体的にはどんな内容か記載してください。**												
	1 名 称		市町村と県が連携した手話講習会										1
	2 回 数		1回										1
	3 時間数		2時間										1
	4 定 員		50人程度										1
	5 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）												0
	(1)聴覚障害者												0
	(2)手話通訳者、手話通訳士												0
	(3)その他		○県講師										1
	6 内 容		神奈川県手話推進計画に基づいた手話講習会										1
問Ⅱ-22	**「手話の普及、拡大のための講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば、記載してください。**												
	（回答欄）		特になし										1
問Ⅱ-23	**「手話の普及、拡大のための講座等」の課題は、何だと思いますか。具体的に記載してください。**												
	（回答欄）		講座等開催後の状況が把握しきれていない										1
問Ⅱ-24	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に例います。具体的にはどんな内容か記載してください。**												
	1 名 称												0
	2 回 数												0
	3 時間数												0
	4 定 員												0
	5 テキスト												0
	6 内 容												0
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）												
	(1)聴覚障害者												0
	(2)手話通訳者、手話通訳士												0
	(3)その他												0
問Ⅱ-25	**「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に例います。手話通訳者養成につなげるために聴覚障害者との会話や手話の表現、読み取りなどは十分に向上しましたか。**												
	1 十分に向上した												0
	2 相当向上した												0
	3 ある程度向上した												0
	4 なかなか向上しない												0
	5 向上しない												0
	6 その他												0
問Ⅱ-26	**「なかなか向上しない」、「向上しない」と回答した市町村に例います。どのあたりの向上が難しいですか。（複数回答）**												
	1 聴覚障害者との会話												0
	2 手話の表現												0
	3 手話の読み取り												0

	4 その他												0
問Ⅱ-27	「向上が難しい」理由は何だと思いますか。												
	1 予算が足りないため、十分な講習時間を確保できない												0
	2 指導講師が足りない												0
	3 その他												0
問Ⅱ-28	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば記載してください。												
	(回答欄)												0
問Ⅱ-29	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」の課題は何だと思いますか。具体的に記載してください。												
	(回答欄)												0
問Ⅱ-30	「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。												
	1 名 称												0
	2 回 数												0
	3 時間数												0
	4 定 員												0
	5 内 容												0
	6 講 師(該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。)												
	(1)聴覚障害者												0
	(2)手話通訳者、手話通訳士												0
	(3)その他												0
問Ⅱ-31	「その他」と回答した市町村に伺います。平成30年度に改善、変更があった事項を記載してください。												
	(回答欄)												0
問Ⅱ-32	平成30年度は手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか、または実施しますか。												
	1 実施した、または実施の予定		○										1
	2 実施しない			○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
	3 検討中												0
問Ⅱ-33	「実施した、または実施の予定」の市町村に伺います。目的は何ですか。(複数回答)												
	1 手話の普及、拡大のための講座等		○										1
	2 手話通訳者養成につなげるための補習的講座等		○										1
	3 その他												0
問Ⅱ-34	「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。												
	1 名 称		市町村と県が連携した手話講習会										1
	2 回 数		1回										1
	3 時間数		2時間										1
	4 定 員		30人程度										1
	5 講 師(該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。)												
	(1)聴覚障害者		○										1
	(2)手話通訳者、手話通訳士		○										1
	(3)その他												0
	6 内 容												0
問Ⅱ-35	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。												
	1 名 称		小田原市手話通訳者養成レベルアップ講座										1
	2 回 数		20回										1
	3 時間数		40時間										1
	4 定 員		15人程度										1
	5 テキスト		独自										1
	6 内 容		基礎課程をさらにレベルアップし次年度の県通訳者養成につながるような内容										1
	7 講 師(該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。)												
	(1)聴覚障害者		○										1
	(2)手話通訳者、手話通訳士		○										1
	(3)その他												1
問Ⅱ-36	「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。												
	1 名 称												0
	2 回 数												0
	3 時間数												0
	4 定 員												0
	5 内 容												0
	6 講 師(該当するもの全てに○印、「その他」は回答欄に具体的に記載してください。)												
	(1)聴覚障害者												0
	(2)手話通訳者、手話通訳士												0
	(3)その他												0
問Ⅱ-37	市町村の手話奉仕員養成が、県の手話通訳者養成になかなかつながらない現状があります。その理由は何だと思いますか。(複数回答)												
	1 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。(学科試験)			○	○			○	○		○		5
	2 手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。(技術試験)			○	○			○	○		○		5
	3 講習会場が藤沢なので、受講しにくい		○		○	○		○	○	○			6
	4 手話奉仕員養成で、十分な内容の講習ができていない						○						1
	5 その他		開催日程									現状を把握していない為わからない	2
問Ⅱ-38	県の手話通訳者資格取得のためには、手話学習経験が何年程度必要と思いますか。												
	1 2年												0
	2 3年			○									1
	3 4年												0

	4 5年		○					○	○	○	○		5
	5 6年												0
	6 7年												0
	7 8年												0
	8 9年												0
	9 10年												0
	10 その他				○							現状を把握していない為わからない	2
問Ⅱ−39	**県の手話通訳者養成に改善を希望することは何ですか。（複数回答）**												
	1 養成コースの複数化												0
	2 養成コースの地域開催		○	○	○	○	○	○	○	○			8
	3 養成コースの充実				○								1
	4 再受験者対策の充実			○			○						2
	5 合格基準の緩和			○									1
	6 その他		土日夜間開催								○	現状を把握していない為わからない	3
問Ⅱ−40	**県の手話通訳者養成が、平成30年度から講習回数拡大、面接試験導入等大きく改編されることを知っていますか。**												
	1 知っている		○		○	○					○		4
	2 知らない			○			○	○	○	○		○	6
問Ⅱ−41	**手話通訳者を増やしていくために、どんなことが必要だと思いますか。（複数回答）**												
	市町村での取り組み												
	1 聴覚障害者との交流促進		○	○	○	○		○	○				6
	2 手話、聴覚障害者理解の普及				○	○		○	○			○	5
	3 手話奉仕員養成の充実		○	○			○	○	○				5
	4 手話通訳者の身分保障		○		○	○	○	○	○			○	7
	5 その他										○		1
	県での取り組み												
	1 手話通訳者養成講習会の充実			○				○	○				3
	2 手話通訳者の身分保障		○		○	○		○	○			○	6
	3 手話、聴覚障害者理解の普及				○	○		○	○	○		○	6
	4 市町村手話奉仕員養成と県手話通訳者養成をつなげる工夫		○	○	○	○	○	○	○				7
	5 財政的な支援			○	○		○	○	○	○		○	7
	6 その他										○		1
問Ⅱ−42	**手話奉仕員養成、手話通訳者養成等について意見があれば、自由に記載してください。**												
	（回答欄）		若い世代の受講生が少ない。県の通訳者養成につながるレベルの受講生育成に時間がかかる。平日昼間に活動できる人材の確保ができない。										1
問Ⅱ−43	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等実施しましたか。**												
	1 実施した							○	○				2
	2 実施していない		○	○	○	○	○			○	○	○	8
問Ⅱ−44	**「実施した」と回答した市町村に伺います。具体的にどんな内容でしたか。**												
	1 名 称							障害者差別解消法に関する研修	平成30年度障害者差別解消法に関する研修				2
	2 対 象							全職員	2･3･4級の職員				2
	3 回 数							2	1回				2
	4 時間数							1時間30分	1時間30分				2
	5 定 員							100	20人				2
	6 内 容（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）												
	（1）聴覚障害に関する講演							○	○				2
	（2）聴覚障害者の体験談							○	○				2
	（3）手話講習							○	○				2
	（4）その他												2
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）												
	（1）聴覚障害者							○	○				2
	（2）手話通訳者、手話通訳士							○	○				2
	（3）その他												2
問Ⅱ−45	**「実施していない」と回答した市町村に伺います。実施していない理由は何ですか。（複数回答）**												
	1 必要性を感じないから									○			1
	2 時間的に余裕がないから		○	○	○	○					○	○	6
	3 予算が確保できないから			○	○		○					○	4
	4 講師がいないから											○	1
	5 運営が大変だから			○							○	○	3
	6 その他										○		1
問Ⅱ−46	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等について、平成30年度に改善、変更したことがあれば記載ください。**												
	（回答欄）		今年度、新規採用職員を対象とした「差別解消法研修」の一環で「手話」についての講義を予定。										1

Ⅱ　手話奉仕員養成等

保健福祉圏 市町村名		全体集計	保健福祉圏 横須賀・三浦	湘南東部	湘南西部	県央	県西
質問及び回答選択肢等							
問Ⅱ-1	平成29年度に、手話奉仕員養成を実施しましたか。						
	1　実施した	26	5	3	5	6	7
	2　実施していない	4	0	0	0	1	3
問Ⅱ-2	どんなカリキュラムで実施しましたか。						
	1　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程	18	5	1	3	4	5
	2　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施	8	0	2	2	2	2
	3　独自のカリキュラム	0	0	0	0	0	0
	4　その他	0	0	0	0	0	0
問Ⅱ-3	実施形態について伺います。						
	1　市町村独自に実施	3	2	0	0	1	0
	2　聴覚障害者協会に委託	19	2	2	5	4	6
	3　手話サークルに委託	0	0	0	0	0	0
	4　社会福祉団体に委託	1	0	0	0	1	0
	5　その他	4	1	1	1	0	1
問Ⅱ-4	講習の名称、回数、時間数等を記載してください。						
	1　名　称	26	5	3	5	6	7
	2　回　数	26	5	3	5	6	7
	3　時間数	26	5	3	5	6	7
	4　定　員	26	5	3	5	6	7
	5　受講人数	26	5	3	5	6	7
	6　修了人数	25	5	3	4	6	7
問Ⅱ-5	実技講師はどなたが担いましたか。						
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア	25	5	3	5	6	6
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア	0	0	0	0	0	0
	3　聴覚障害者協会会員のみ	0	0	0	0	0	0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ	0	0	0	0	0	0
	5　その他	0	0	0	0	0	0
問Ⅱ-6	講義講師はどなたが担いましたか。（複数回答）						
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア	21	2	3	5	4	7
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア	0	0	0	0	0	0
	3　聴覚障害者協会会員のみ	2	1	0	0	1	0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ	2	1	0	0	1	0
	5　外部講師	9	5	2	2	0	0
	6　その他	7	2	0	0	4	1
問Ⅱ-7	手話奉仕員養成目標「手話を習得し、地域の聴覚障害者と手話で会話ができ、習得した手話等を活用して、地域の聴覚障害者団体の行事への参加や、手話サークル活動への参加等、手話活動を行う」を達成できていますか。						
	1　達成できている	20	3	1	4	6	6
	2　達成できていない	3	0	1	1	0	1
	3　その他	3	2	1	0	0	0
問Ⅱ-8	手話奉仕員養成目標が「達成できていない」と回答した市町村に伺います。達成できていないのは、どの部分ですか。（複数回答）						
	1　聴覚障害者と、手話で会話ができない（該当するものすべてに○をしてください）	0	0	0	0	0	0
	（1）会話に必要な知識が身についていない	0	0	0	0	0	0
	（2）会話に必要な技術が身についていない	1	0	1	0	0	0
	2　聴覚障害者団体の行事へ参加が不十分	2	0	1	1	0	0
	3　手話サークル活動への参加が不十分	3	0	1	1	0	1
	4　その他	1	0	0	1	0	0
問Ⅱ-9	目標が達成できない原因は何だと感じていますか。（複数回答）						
	1　予算が足りないため、十分な講習時間が確保できない。	1	0	0	0	0	1
	2　指導講師が足りない。	0	0	0	0	0	0
	3　その他	2	0	1	1	0	0
問Ⅱ-10	手話奉仕員養成を実施するにあたっての課題は何だと思いますか。（複数回答）						
	1　講師不足	9	2	2	3	2	0
	2　聴覚障害者との交流促進	9	2	1	2	3	1
	3　受講者不足	7	1	0	2	3	1
	4　受講者のレベルに合わせた講習実施	10	3	1	3	2	1

	5　運営が大変	8	1	0	2	0	5
	6　その他	3	2	1	0	0	0
問Ⅱ-11	平成30年度の手話奉仕員養成で改善、変更があったものがあれば記載してください。						
	（回答欄）	3	0	1	0	2	0
問Ⅱ-12	「実施していない」理由は何ですか。（複数回答）						
	1　予算が確保できない	1	0	0	0	0	1
	2　会場が確保できない	0	0	0	0	0	0
	3　講師が確保できない	0	0	0	0	0	0
	4　運営が大変だから	1	0	0	0	0	1
	5　その他	3	0	0	0	1	2
問Ⅱ-13	平成30年度は実施しましたか。または、実施しますか。						
	1　実施する、または実施した	20	5	3	5	6	1
	2　実施しない	10	0	0	0	1	9
問Ⅱ-14	「実施する、または実施した」と回答した市町村に伺います。どんなカリキュラムで実施または実施予定ですか。						
	1　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム全課程	15	5	3	3	4	0
	2　厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの一部を実施	5	0	0	2	2	1
	3　独自のカリキュラム	0	0	0	0	0	0
	4　その他	0	0	0	0	0	0
問Ⅱ-15	実施形態について伺います。						
	1　市町村独自に実施	3	2	0	0	1	0
	2　聴覚障害者協会に委託	13	2	2	5	4	0
	3　手話サークルに委託	0	0	0	0	0	0
	4　社会福祉団体に委託	2	0	1	0	1	0
	5　その他	4	1	1	1	0	1
問Ⅱ-16	講習の名称、回数、時間数等を記載してください。						
	1　名　称	20	5	3	5	6	1
	2　回　数	20	5	3	5	6	1
	3　時間数	20	5	3	5	6	1
	4　定　員	20	5	3	5	6	1
	5　受講人数（実施済の場合記載）	15	4	1	3	6	1
	6　修了人数（実施済の場合記載）	4	1	0	1	2	0
問Ⅱ-17	実技講師はどなたが担いましたか。または、担う予定ですか。						
	1　聴覚障害者協会会員と手話通訳者のペア	20	5	3	5	6	1
	2　聴覚障害者協会会員と手話サークル会員のペア	0	0	0	0	0	0
	3　聴覚障害者協会会員のみ	0	0	0	0	0	0
	4　手話通訳者または手話サークル会員のみ	0	0	0	0	0	0
	5　その他	0	0	0	0	0	0
問Ⅱ-18	平成29年度、30年度とも手話奉仕員養成を「実施しない」市町村に伺います。今後、実施する予定はありますか。						
	1　実施する予定がある（平成　　年度）	3	0	0	0	0	3
	2　実施する予定はない	2	0	0	0	1	1
	3　検討中	3	0	0	0	0	3
問Ⅱ-19	平成29年度に、手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか						
	1　実施した	15	5	2	3	4	1
	2　実施していない	14	0	1	2	3	8
	3　その他	0	0	0	0	0	0
問Ⅱ-20	手話奉仕員養成以外の手話に関する講座等の目的は何ですか。（複数回答）						
	1　手話の普及、拡大のための講座等	5	2	1	1	0	1
	2　手話通訳者養成につなげるための補習的講座等	12	5	1	3	3	0
	3　その他	1	0	0	0	1	0
問Ⅱ-21	「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。						
	1　名　称	5	2	1	1	0	1
	2　回　数	5	2	1	1	0	1
	3　時間数	5	2	1	1	0	1
	4　定　員	5	2	1	1	0	1
	5　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）	0	0	0	0	0	0
	（1）聴覚障害者	4	2	1	1	0	0
	（2）手話通訳者、手話通訳士	4	2	1	1	0	0
	（3）その他	3	1	0	1	0	1

	6 内 容	4	1	1	1	0	1
問Ⅱ−22	「手話の普及、拡大のための講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば、記載してください。						
	（回答欄）	2	1	0	0	0	1
問Ⅱ−23	「手話の普及、拡大のための講座等」の課題は、何だと思いますか。具体的に記載してください。						
	（回答欄）	4	1	1	1	0	1
問Ⅱ−24	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。						
	1 名 称	12	5	1	3	3	0
	2 回 数	12	5	1	3	3	0
	3 時間数	12	5	1	3	3	0
	4 定 員	12	5	1	3	3	0
	5 テキスト	12	5	1	3	3	0
	6 内 容	11	4	1	3	3	0
	7 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）						
	（1）聴覚障害者	12	5	1	3	3	0
	（2）手話通訳者、手話通訳士	12	5	1	3	3	0
	（3）その他	12	5	1	3	3	0
問Ⅱ−25	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。手話通訳者養成につなげるために聴覚障害者との会話や手話の表現、読み取りなどは十分に向上しましたか。						
	1 十分に向上した	0	0	0	0	0	0
	2 相当向上した	3	1	0	1	1	0
	3 ある程度向上した	8	4	1	2	1	0
	4 なかなか向上しない	1	0	0	0	1	0
	5 向上しない	0	0	0	0	0	0
	6 その他	0	0	0	0	0	0
問Ⅱ−26	「なかなか向上しない」、「向上しない」と回答した市町村に伺います。どのあたりの向上が難しいですか。（複数回答）						
	1 聴覚障害者との会話	0	0	0	0	0	0
	2 手話の表現	0	0	0	0	0	0
	3 手話の読み取り	1	0	0	0	1	0
	4 その他	1	0	0	0	1	0
問Ⅱ−27	「向上が難しい」理由は何だと思いますか。						
	1 予算が足りないため、十分な講習時間を確保できない	0	0	0	0	0	0
	2 指導講師が足りない	0	0	0	0	0	0
	3 その他	1	0	0	0	1	0
問Ⅱ−28	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」で、平成30年度に改善、変更した項目があれば記載してください。						
	（回答欄）	4	1	0	2	1	0
問Ⅱ−29	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」の課題は何だと思いますか。具体的に記載してください。						
	（回答欄）	10	5	0	2	3	0
問Ⅱ−30	「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。						
	1 名 称	1	0	0	0	1	0
	2 回 数	1	0	0	0	1	0
	3 時間数	1	0	0	0	1	0
	4 定 員	1	0	0	0	1	0
	5 内 容	1	0	0	0	1	0
	6 講 師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）						
	（1）聴覚障害者	1	0	0	0	1	0
	（2）手話通訳者、手話通訳士	1	0	0	0	1	0
	（3）その他	4	0	0	1	3	0
問Ⅱ−31	「その他」と回答した市町村に伺います。平成30年度に改善、変更があった事項を記載してください。						
	（回答欄）	0	0	0	0	0	0
問Ⅱ−32	平成30年度は手話奉仕員養成以外に、手話に関する講座等を実施しましたか、または実施しますか。						
	1 実施した、または実施の予定	13	5	0	3	4	1
	2 実施しない	17	0	3	2	3	9
	3 検討中	0	0	0	0	0	0

問Ⅱ-33	「実施した、または実施の予定」の市町村に伺います。目的は何ですか。（複数回答）						
	1　手話の普及、拡大のための講座等	4	2	0	1	0	1
	2　手話通訳者養成につなげるための補習的講座等	12	5	0	3	3	1
	3　その他	1	0	0	0	1	0
問Ⅱ-34	「手話の普及、拡大のための講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。						
	1　名　称	5	2	0	1	1	1
	2　回　数	5	2	0	1	1	1
	3　時間数	5	2	0	1	1	1
	4　定　員	5	2	0	1	1	1
	5　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）						
	（1）聴覚障害者	5	2	0	1	1	1
	（2）手話通訳者、手話通訳士	5	2	0	1	1	1
	（3）その他	1	0	0	0	1	0
	6　内　容	1	1	0	0	0	0
問Ⅱ-35	「手話通訳者養成につなげるための補習的講座等」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。						
	1　名　称	11	5	0	3	2	1
	2　回　数	11	5	0	3	2	1
	3　時間数	11	5	0	3	2	1
	4　定　員	11	5	0	3	2	1
	5　テキスト	10	4	0	3	2	1
	6　内　容	9	3	0	3	2	1
	7　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に記載してください。）						
	（1）聴覚障害者	10	4	0	3	2	1
	（2）手話通訳者、手話通訳士	10	4	0	3	2	1
	（3）その他	11	5	0	3	2	1
問Ⅱ-36	「その他」と回答した市町村に伺います。具体的にはどんな内容か記載してください。						
	1　名　称	1	0	0	0	1	0
	2　回　数	1	0	0	0	1	0
	3　時間数	1	0	0	0	1	0
	4　定　員	1	0	0	0	1	0
	5　内　容	1	0	0	0	1	0
	6　講　師（該当するもの全てに○印、「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）						
	（1）聴覚障害者	1	0	0	0	1	0
	（2）手話通訳者、手話通訳士	1	0	0	0	1	0
	（3）その他	1	0	0	0	1	0
問Ⅱ-37	市町村の手話奉仕員養成が、県の手話通訳者養成になかなかつながらない現状があります。その理由は何だと思いますか。（複数回答）						
	1　手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（学科試験）	11	0	2	1	3	5
	2　手話通訳者養成を受講するための試験が難し過ぎる。（技術試験）	12	1	2	1	3	5
	3　講習会場が藤沢なので、受講しにくい	11	2	0	1	2	6
	4　手話奉仕員養成で、十分な内容の講習ができていない	6	2	1	1	1	1
	5　その他	12	2	3	1	4	2
問Ⅱ-38	県の手話通訳者資格取得のためには、手話学習経験が何年程度必要と思いますか。						
	1　2年	1	1	0	0	0	0
	2　3年	4	0	0	2	1	1
	3　4年	2	0	1	1	0	0
	4　5年	10	1	1	1	2	5
	5　6年	5	2	1	0	2	0
	6　7年	0	0	0	0	0	0
	7　8年	1	1	0	0	0	0
	8　9年	0	0	0	0	0	0
	9　10年	0	0	0	0	0	0
	10　その他	5	1	0	0	2	2
問Ⅱ-39	県の手話通訳者養成に改善を希望することは何ですか。（複数回答）						
	1　養成コースの複数化	11	2	3	3	3	0
	2　養成コースの地域開催	18	2	1	3	4	8
	3　養成コースの充実	6	0	2	0	3	1
	4　再受験者対策の充実	16	4	2	4	4	2
	5　合格基準の緩和	3	0	1	0	1	1

	6　その他	5	2	0	0	0	3
問Ⅱ−40	**県の手話通訳者養成が、平成30年度から講習回数拡大、面接試験導入等大きく改編されることを知っていますか。**						
	1　知っている	18	4	3	2	5	4
	2　知らない	12	1	0	3	2	6
問Ⅱ−41	**手話通訳者を増やしていくために、どんなことが必要だと思いますか。（複数回答）**						
	市町村での取り組み						
	1　聴覚障害者との交流促進	18	4	2	2	4	6
	2　手話、聴覚障害者理解の普及	21	3	2	5	6	5
	3　手話奉仕員養成の充実	15	2	2	3	3	5
	4　手話通訳者の身分保障	19	2	2	3	5	7
	5　その他	1	0	0	0	0	1
	県での取り組み						
	1　手話通訳者養成講習会の充実	19	5	2	3	6	3
	2　手話通訳者の身分保障	22	4	2	4	6	6
	3　手話、聴覚障害者理解の普及	18	2	2	3	5	6
	4　市町村手話奉仕員養成と県手話通訳者養成をつなげる工夫	24	5	3	4	5	7
	5　財政的な支援	20	4	2	2	5	7
	6　その他	1	0	0	0	0	1
問Ⅱ−42	**手話奉仕員養成、手話通訳者養成等について意見があれば、自由に記載してください。**						
	（回答欄）	6	0	3	0	2	1
問Ⅱ−43	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等実施しましたか。**						
	1　実施した	7	0	2	1	2	2
	2　実施していない	23	5	1	4	5	8
問Ⅱ−44	**「実施した」と回答した市町村に伺います。具体的にどんな内容でしたか。**						
	1　名　称	7	0	2	1	2	2
	2　対　象	7	0	2	1	2	2
	3　回　数	7	0	2	1	2	2
	4　時間数	7	0	2	1	2	2
	5　定　員	6	0	1	1	2	2
	6　内　容（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）						
	（1）聴覚障害に関する講演	5	0	0	1	2	2
	（2）聴覚障害者の体験談	3	0	0	0	1	2
	（3）手話講習	7	0	2	1	2	2
	（4）その他	7	0	2	1	2	2
	7　講　師（該当するものすべてに○。「その他」は回答欄に具体的に記載してください。）						
	（1）聴覚障害者	3	0	0	0	1	2
	（2）手話通訳者、手話通訳士	5	0	1	1	1	2
	（3）その他	7	0	2	1	2	2
問Ⅱ−45	**「実施していない」と回答した市町村に伺います。実施していない理由は何ですか。（複数回答）**						
	1　必要性を感じないから	2	0	0	0	1	1
	2　時間的に余裕がないから	15	4	0	2	3	6
	3　予算が確保できないから	10	2	0	1	3	4
	4　講師がいないから	4	0	0	1	2	1
	5　運営が大変だから	4	0	0	0	1	3
	6　その他	7	1	1	2	2	1
問Ⅱ−46	**市町村職員を対象とした、聴覚障害、聴覚障害者理解のための研修等について、平成30年度に改善、変更したことがあれば記載ください。**						
	（回答欄）	4	1	1	1	0	1